



公益財団法人 日本サッカー協会

JFAプロフィール

JFA PROFILE 2013

(改訂版)



公益財団法人 日本サッカー協会

www.jfa.or.jp

07.2013



夢を力に
2014

Dream and believe.
Dream to achieve.
Change to achieve.

Message from the President



公益財団法人 日本サッカー協会
会長 大仁 邦彌

先人たちのたゆみない努力のおかげで、サッカーはようやく人気のスポーツとして日本に定着しつつあります。Jリーグが誕生してからは、トップレベルが急速に進化。日本代表は1998年のFIFAワールドカップフランス大会に初出場して以来、4大会連続で本大会出場を果たしており、2010年の南アフリカ大会では32チーム中9位という評価を得ることができました。U-23日本代表も1996年大会から5大会に出場。女子においては、なでしこジャパン(日本女子代表)が2011年、FIFA女子ワールドカップ優勝という快挙を成し遂げました。U-20とU-17男女代表チーム、フットサル、ビーチサッカーの日本代表も着実に成果を上げており、今後の成長が楽しみです。

さて、今回の会長選任に際し、小倉純二前会長から渡されたバトンは4つ。まずは、FIFAワールドカップブラジル大会への出場権を獲得すること、そして女子サッカーの拡大と充実、三つ目は東日本大震災への継続的支援、そして、公益財団法人としての組織強化です。

現在、日本サッカー協会(JFA)に登録するサッカーファミリーは約138万人、JFAの財政基盤は165億円です。サッカー先進国の協会とはまだ多少の差はありますが、我々は、“2015年には、世界でトップ10の組織となり、サッカーファミリーを500万人に、日本代表チームは世界でトップ10のチームとなる”ことを目指して活動しています。

課されたミッションをより発展させていくためには、47都道府県とのコミュニケーションをより密にし、サッカーをプレーする人、応援する人、サポートする人など、サッカーファミリーを増やすことが必要です。そして活動を推進するための財源の確保——それには、SAMURAI BLUE(日本代表)をはじめとする代表チームが、強く、魅力的で、夢あふれる存在でなければなりません。

アジアのプロリーグ改革によって各国のレベルも上がり、アジアの予選もますます厳しくなっていますが、我々としては、底辺の拡大を推し進めながら、代表チームの強化に力を注いでいく考えです。また、女子サッカーについても、この盛り上がりを決して一過性のものにしないこと。FIFA(国際サッカー連盟)も日本の女子サッカー人気を世界に波及させたいと期待を寄せていますので、日本が世界の女子サッカーをリードする存在になるべく、環境整備と普及・強化活動、そして、ファンを拡大するためのPR活動も積極的に進めていく考えです。

また、日本サッカーの強化を担うJリーグにつきましても、その価値の向上と人気拡大を図りながら、AFCチャンピオンズリーグや、その先にあるFIFAクラブワールドカップで躍進できるよう、Jリーグとともにさらなる発展を目指していきます。

サッカーは、世界で一番愛されているスポーツです。東日本大震災においてFIFAや大陸連盟、各国協会など国内外のサッカーファミリーから受けた温かい支援は絶大なもので、我々はそこであらためてサッカーの力、サッカーの絆の強さというものを再認識しました。復興にはまだまだ時間がかかりますが、震災を風化させることなく、サッカー界として継続して取り組んでいく覚悟です。

なでしこジャパンが見せた真摯な戦いぶりが被災地だけでなく世界中の人々の共感を呼んだように、サッカーが社会に与える影響力というものは決して小さいものではありません。我々はそれをしっかりと認識し、自覚と責任を持ってスポーツの発展に全力を尽くしていきたいと考えています。

Profile

大仁 邦彌(だいに くにや) 公益財団法人 日本サッカー協会 会長

1944(昭和19)年10月12日、兵庫県神戸市出身。1970年に慶応義塾大学を卒業後、三菱重工業株式会社に入社。同社サッカー部に所属し、日本サッカーリーグで119試合出場、1得点、4アシスト。日本代表では44試合に出場した。1984年から同社サッカー部監督。1996年に日本サッカー協会(JFA)理事に就任し、強化委員会委員長、2002年強化推進本部副本部長を歴任。2000年に常務理事、06年に副会長に就任。翌07年からは日本フットサルリーグの最高執行責任者(COO)も務めた。12年6月、第13代日本サッカー協会会長に就任。

日本サッカー協会(JFA)組織概要

日本サッカー協会(JFA)は、「サッカーを通じてスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念のもと、キッズからシニアまで幅広い層の人々がサッカーを楽しみ、スポーツを通じて豊かな人生を享受できる環境づくりに取り組んでいます。

JFA組織概要

正式名称 公益財団法人 日本サッカー協会
名誉総裁 高円宮妃殿下
会長 大仁 邦彌
所在地 〒113-8311 東京都文京区サッカー通り (本郷3丁目10番15号) JFAハウス
 電話 03-3830-2004 (代表)
 FAX 03-3830-2005

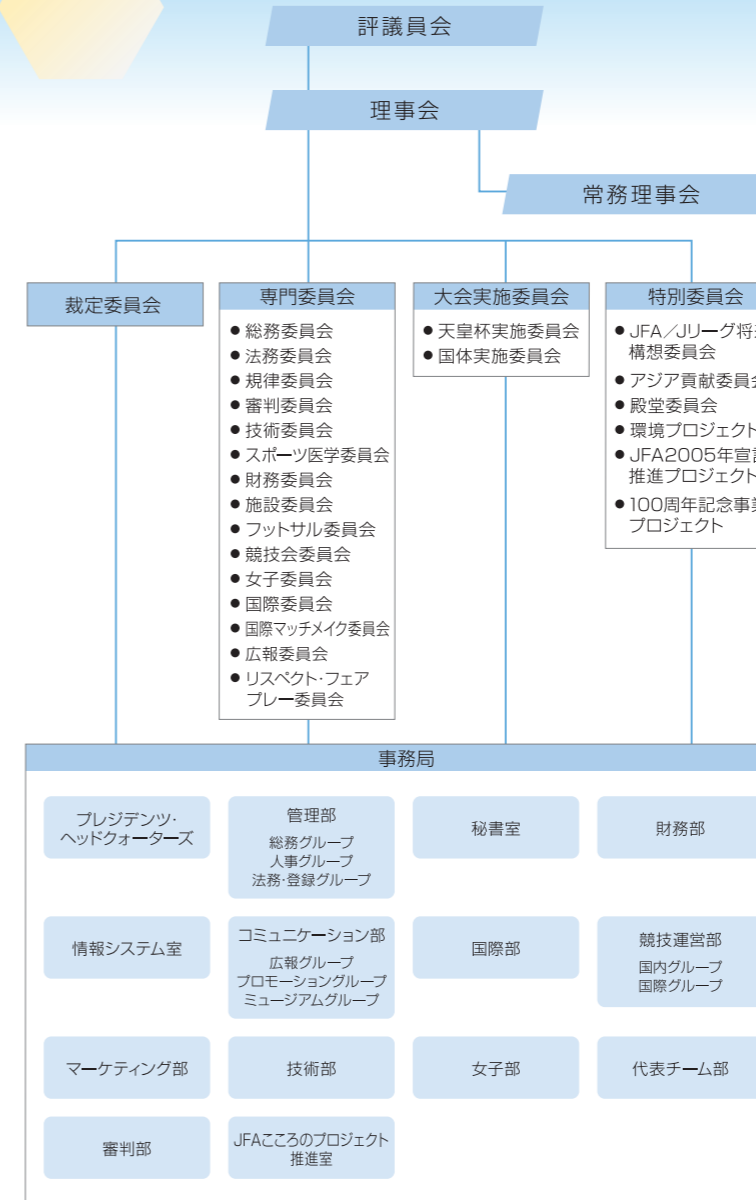
協会創立 1921年
FIFA加盟 1929年
AFC加盟 1954年
ホームページ <http://www.jfa.or.jp>

JFAの目的および事業

JFAは、日本サッカー界を統括し代表する団体として、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献することを目的として活動しています。その目的を達成するため、以下の事業を行います。

- 1 日本を代表する各年代、各カテゴリーのサッカーチームを組織し、各種競技会への参加及び代表チームが参加する競技会の開催
- 2 サッカーの全日本選手権大会その他の競技会の開催
- 3 サッカー選手の育成、サッカー競技の普及及びサッカーの指導者並びに審判員の育成
- 4 選手、チーム、指導者及び審判員等の登録
- 5 知的所有権の管理及び商標提供
- 6 社会貢献及び国際貢献の実施
- 7 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

JFA組織図



理事会

JFAの各種業務を協議・決定する期間です。原則として、毎月開催し、会長が議長を務め、理事、監事、特任理事で構成されています。

役職	名前	所属・役職
会長	大仁 邦彌	公益財団法人 日本サッカー協会
副会長	田嶋 幸三	公益財団法人 日本サッカー協会
常務理事	大東 和美	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン
	小川 勇二	九州サッカー協会 / 社団法人 長崎県サッカー協会
	藤縄 信夫	関西サッカー協会 / 一般社団法人 大阪府サッカー協会
	松崎 康弘	公益財団法人 日本サッカー協会
理事	中野 幸夫	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ 専務理事
	植田 昌利	公益財団法人 東京都サッカー協会 専務理事
	佐々木 一樹	(株)ジェイリーグエンタープライズ / リーグファクトリー代表取締役社長
	瀧井 敏郎	東京学芸大学 教授
	上田 栄治	公益財団法人 日本サッカー協会
	林 義規	暁星学園中学高等学校 教諭
	大河 正明	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ 理事
	日比野 克彦	東京藝術大学 教授 / アーティスト
	原 博実	公益財団法人 日本サッカー協会
	上川 徹	公益財団法人 日本サッカー協会
	北澤 豪	サッカー解説者
	三好 豊	弁護士
	大岩 真由美	AFCフェデレーインストラクター(元女子国際主審)
	田畑 博章	財団法人 北海道サッカー協会
岸 慎一	東北サッカー協会 / NPO法人 山形県サッカー協会	
坂庭 泉	関東サッカー協会 / 公益財団法人 埼玉県サッカー協会	
中和 昌成	北信越サッカー協会 / 社団法人 長野県サッカー協会	
尾関 孝昭	東海サッカー協会 / 一般社団法人 岐阜県サッカー協会	
新宮 博	中国サッカー協会 / 一般社団法人 鳥取県サッカー協会	
逢坂 利夫	四国サッカー協会 / 一般社団法人 徳島県サッカー協会	
監事	岩城 健	税理士
	原 秋彦	弁護士
特任理事	福林 徹	早稲田大学 教授
	池田 正利	弁護士
	綾部 美知枝	会社員
	手嶋 秀人	公益財団法人 日本サッカー協会
	大倉 健史	東京都立高等学校 教諭
	山口 隆文	公益財団法人 日本サッカー協会
	中西 哲生	スポーツジャーナリスト
野田 朱美	日テレ・ベレーザ監督	

2013年10月現在

JFAシンボルマーク

JFAには下記の「シンボルマーク」があります。また、そのシンボルマークを基に「日本代表エンブレム」「日本代表マスコット」が作られています。



1931年制定

ボールを押さえている鳥は、日本神話で神武天皇東征の際に道案内をしたといわれる三本足の鳥です。旗の黄色は公正を、青色は青春を表し、はつらつとした青春の意気に包まれた日本サッカー協会の公正の気宇を表現しています。三本足の鳥のルーツは、中国の古典『淮南子』にあり、中国では、太陽の中に鳥が住むと考えられ、太陽の象徴となりました。

日本代表エンブレム



日本代表マスコット



カラッペ(兄)

カララ(弟)

日本サッカー協会(JFA)組織概要

評議員会

47都道府県サッカー協会から選任された評議員で構成されます。評議員の選任及び解任、JFAの業務において特に重要と考えられる「(1)理事及び監事の選任又は解任」「(2)理事及び監事の報酬等の額」「(3)評議員に対する報酬等の支給の基準」「(4)貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認」「(5)定款の変更」「(6)残余財産の処分」「(7)基本財産の処分又は除外の承認」「(8)その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項」について決議する機関です。

協会	名前	協会	名前	協会	名前
北海道	佐藤 公一	新潟	渡辺 滋	岡山	木村 孝行
青森	久保 雅喜	富山	貫江 和夫	広島	白井 孝司
岩手	吉田 隆一	石川	荒川 剛	山口	天久 弘
宮城	庄司 伸一	福井	神谷 敬一郎	香川	山下 憲一
秋田	外山 純	静岡	高田 稔	徳島	播磨 義博
山形	山本 益生	愛知	越山 彰	愛媛	兵頭 龍哉
福島	櫻岡 祐一	三重	高井 幸郎	高知	秋森 学
茨城	木内 敏之	岐阜	森 進一	福岡	井上 辰馬
栃木	室井 和比古	滋賀	松田 保	佐賀	浪瀬 隆一
群馬	牛久保 勇	京都	村山 義彰	長崎	造酒 星市
埼玉	横山 謙三	大阪	山野 喜弘	熊本	北岡 長生
千葉	大野 辰巳	兵庫	中桐 俊男	大分	大場 俊二
東京	上野 二三一	奈良	喜田 秀夫	宮崎	櫻田 公一
神奈川	本木 幹雄	和歌山	中村 源和	鹿児島	長嶺 一夫
山梨	渡邊 玉彦	鳥取	池田 洋二	沖縄	上地 義徳
長野	平林 正光	島根	金築 弘		

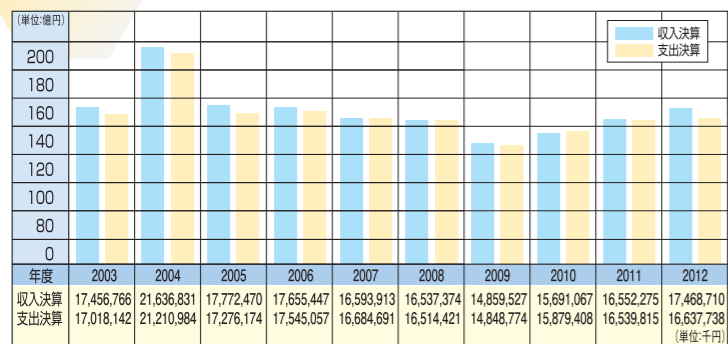
※2013年6月現在

各種委員会

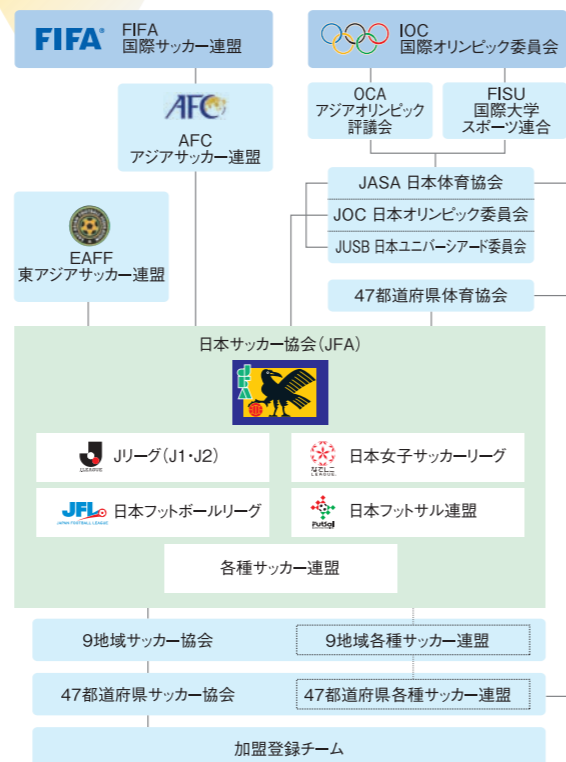
	委員会	委員長
裁定委員会		本林 徹
専門委員会	総務委員会	田中 道博
	法務委員会	田中 道博
	規律委員会	瀧井 敏郎
	審判委員会	上川 徹
	技術委員会	原 博実(統括、強化担当) 山口 隆文(育成担当)
	スポーツ医学委員会	福林 徹
	財務委員会	田中 道博
	施設委員会	佐々木 一樹
	フットサル委員会	松崎 康弘
	競技委員会	田中 道博
	女子委員会	上田 栄治
	国際委員会	田嶋 幸三
	国際マッチメイク委員会	原 博実
	広報委員会	北澤 豪
リスペクト・フェアプレー委員会	上川 徹	
大会実施委員会	天皇杯実施委員会	佐々木 一樹
	国体実施委員会	植田 昌利
特別委員会	JFA/Jリーグ将来構想委員会	田中 道博
	アジア貢献委員会	田嶋 幸三
	殿堂委員会	川淵 三郎
	環境プロジェクト	中西 哲生
	JFA2005年宣言推進プロジェクト	田中 道博
	100周年記念事業プロジェクト	田嶋 幸三

※2013年6月現在

財政規模



関連組織図



プレジデント・ミッション

プレジデント・ミッションは、「普及」と「強化」を両輪とした日本サッカーの基盤確立と「JFA2005年宣言」の実現に向けてJFAが重点的に取り組んでいる施策です。

Mission 1 「JFAメンバーシップ制度」の推進

サッカープレーヤーやフットサルプレーヤー、指導者、審判員、サッカーの仕事に携わる人や支援する人など、サッカーを愛する全ての人々を「サッカーファミリー」と位置づけてその輪を広げようとしています。「JFA2005年宣言」では、2015年にはサッカーファミリーを500万人に、2050年までに1000万人に拡大することを掲げています。

Mission 2 「JFAグリーンプロジェクト」の推進

緑豊かなスポーツ環境を広げることを目的に、「ポット苗方式・芝生化モデル事業」などを通じてその充実を目指します。また、地域スポーツの拠点となる「都道府県フットボールセンター」を全国に拡大していきます。

Mission 3 「JFAキッズプログラム」の推進

心身の成長がめざましいU-6・U-8・U-10年代を「キッズ」と称し、身体を動かすことの爽快感やスポーツの素晴らしさを伝えながら子どもたちの心身の健全な発達を促します。

Mission 4 中学生年代の環境充実

小学生選手の受け皿であり、高校生年代への貴重な準備期間である中学生(U-15)年代の選手に対し、「プレー機会の増加」と「環境の整備」を重点的な取り組みとしてその活性化を図ります。

Mission 5 エリート養成システムの確立

長期一貫指導に重点を置いた施策で、キッズ年代からユース年代までのタレント発掘・養成活動を推進し、選手の「個」の育成に努めています。また、JFAアカデミーやトレセン制度、JFAエリートプログラムなど、日本代表の強化につながるエリート養成システムを確立して人間教育や社会教育も含めた選手育成に取り組み、社会に貢献できる人材の輩出を目指します。

Mission 6 女子サッカーの活動推進

「キッズ」(10歳以下)・「ガールズ」(18歳以下)・「レディース」(18歳以上)を対象に女子サッカーの普及と強化を図っています。中でも中学生年代の女子の活動の場を増やしながらその普及を目指すとともに、選手の発掘やプレーの機会創出に努めています。

Mission 7 フットサルの普及推進

子どもや女性でも気軽に楽しめるフットサル。サッカーの導入としても有効なこの競技を、広く普及させることを目指しています。また、「JFAファミリーフットサルフェスティバル」を全国各地で開催し、家族の触れ合いの場やコミュニティでのスポーツ活動の機会を提供しています。

Mission 8 リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

誰もが年齢やレベル、目的に応じてサッカーを楽しめるよう、「Players First」を念頭に競技会の充実を図っています。また、リーグの整備を推し進め、選手たちが真剣勝負の中でトライ&エラーを繰り返す、サッカー技術の向上とチャレンジ精神を醸成する場と機会を広げていきます。

Mission 9 地域/都道府県協会の活動推進

全ての地域/都道府県サッカー協会が地域性や独自性を生かした活動を展開できるよう、JFAは各都道府県サッカー協会の活動をサポート。より多くのサッカーファミリーにメリットを提供してサッカーの普及とスポーツ環境の充実を図っています。

Mission 10 中長期展望に立った方針策定と提言

「JFA2005年宣言」に掲げる「JFAの約束」を実現させるため、短中長期の目標を設定。新規事業や遂行すべき課題を掲げて共有し、それぞれの業務に反映させます。また、定期的な課題や業務の進捗状況を検証し、目標の具現化を推し進めます。

Mission 11 スポーツマネジメントの強化

JFAが中心となって行う「JFAスポーツマネージャーズカレッジ(SMC)本講座」と都道府県サッカー協会が主となって実施する「SMCサテライト講座」を通じて、スポーツに携わる人材を養成。JFAや都道府県サッカー協会、クラブチームなどのマネジメントの強化に生かしています。



サッカーファミリーの拡大を目指して

日本サッカー協会(JFA)は、「サッカーを通じてスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念のもと、キッズからシニアまで幅広い層の人々がサッカーを楽しみ、スポーツを通じて豊かな人生を享受できる環境づくりに取り組んでいます。

サッカーファミリー

JFAは、『JFA2005年宣言』で“2015年にはサッカーファミリーが500万人になる。2050年までに1000万人になる”と約束しています。現在、プレーヤー、指導者、審判員、運営スタッフ・協会役員、ファンを「サッカーファミリー」と称し、サッカー環境の整備やプレー機会の充実を図りながら、その拡大に努めています。また、JFA公式ホームページのサッカーファミリー専用サイト「JFAウェブポータル」や機関誌「JFA news」などの媒体を通じて理念や情報を共有し、「する」「観る」「支える」人々にとって魅力的なサッカー界を目指していきます。

2012年度カテゴリー別登録数

チーム	選手	監督	フットサル個人	サッカー審判員	フットサル審判員
28,429	953,740	12,613	125,436	234,037	24,239

サッカー審判インストラクター	フットサル審判インストラクター	指導者(登録)	キッズリーダー(任意登録)	協会役員
2,133	446	70,685	942	1,721

登録数合計 **1,425,992人**
(チーム登録数は除く)

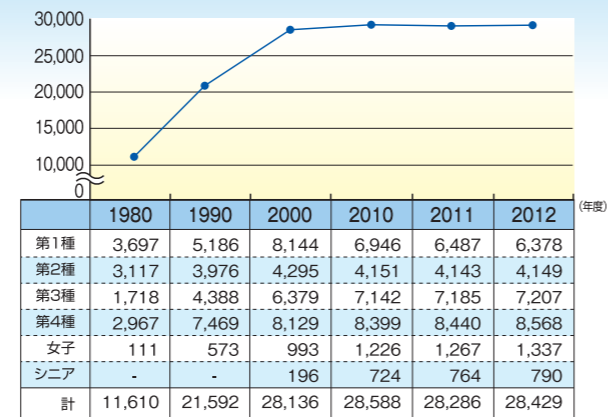
【その他参考】

キッズ関連事業 参加者数	503,605
日本サッカー協会後援会 会員数	5,308
「チケットJFA」(JFA公認チケット販売サイト) 会員数	286,808
Jクラブ・ファン組織 会員数	615,407
JFAフットボールデー 参加者数	27,402
JFA主催試合・競技会 観客延べ数	1,739,391

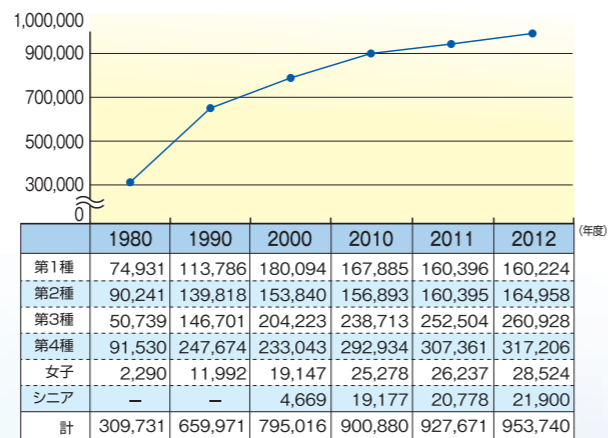
サッカーファミリー数(延べ合計) **4,603,913人**
(2013年3月31日現在)

チーム/選手登録数の推移

■加盟チーム (単位: チーム)

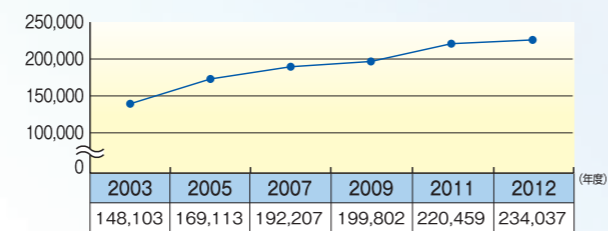


■登録選手 (単位: 人)

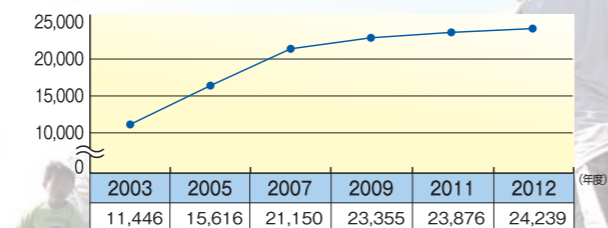


審判員登録数の推移

■サッカー審判員 (単位: 人)



■フットサル審判員 (単位: 人)



JFAフェスティバル

～サッカーボールを蹴る楽しさを全ての人に

JFAでは、家族でスポーツを楽しんだり、女性や子どもたちにもボールを蹴る楽しさを味わってもらおうと、全国各地でさまざまなフェスティバルを開催しています。いずれも好評を博しており、2011年度は、延べ9万人の家族や子どもたちが各イベントに参加しました。JFAは、より多くの人々が気軽に参加できる場を提供し、地域スポーツの振興や子どもたちの心身の健全な発達に寄与したいと考えています。

- ・ JFAファミリーフットサルフェスティバル with KIRIN
- ・ JFAファミリーフットサルフェスティバル with KIRIN スペシャルステージ
- ・ JFAキッズ(U-6/8/10)サッカーフェスティバル
- ・ JFAレディース/ガールズサッカーフェスティバル
- ・ JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル ユニクロサッカーキッズ!



JFAチャレンジゲーム

JFAが開発した「JFAチャレンジゲーム“めざせクラッキ!”」。5～8歳のキッズ年代を対象にしたプログラムで、段階を経て様々な動きを習得でき、親子のコミュニケーションツールとしても活用できます。同プログラムの上級版である「JFAチャレンジゲーム“めざせファンタジスタ!”」は、テクニックを伸ばすためのツールです。検定を受け、ステージをクリアするごとに合格バッジが与えられます。最終ステージはJFA主催で行われ、これまでに21人の子どもの子どもたちがこの難関を突破しました(2012年7月現在)。

公式ホームページ:

<http://www.jfa-challengegame.com>



JFAフットボールデー



JFAは、9月10日の創立記念日を「JFAフットボールデー」と定めています。各都道府県ではそれぞれの協会が楽しいイベントを企画し、地域の人々にサッカーに親しんでもらう場を提供。2011年度は全国で延べ3万人が参加しました。



リスペクトプロジェクト

JFAとJリーグは2008年4月、「リスペクトプロジェクト」をスタートさせました。リスペクトを「大切に思うこと」として、サッカー活動の中ではもちろん、家庭や学校、職場などあらゆる場面でリスペクトを意識して行動し、その精神を広く浸透させていくことを目指します。FIFAフェアプレーデイズ2011に合わせた2011年9月3日には、ホームページ上に「リスペクトF.C. JAPAN」を開設。これは、誰もが参加できるヴァーチャルなクラブで、クラブ員は「サッカーを楽しむこと」「リスペクトのこころを育て大切にすること」「より多くの仲間を増やしていくこと」を誓い、連帯感を持ってリスペクトに関する様々な情報を共有しながらリスペクトの精神を広めていきます。2012年7月12日現在、クラブ員は3600人以上に達しています。



リスペクトF.C. JAPAN
<http://www.respectfc.jp/>

「リスペクトF.C. JAPANの約束」

リスペクトF.C. JAPANの一員として、

- ENJOY サッカーを楽しむことを誓います
- VALUE リスペクトのこころを育て、大切にすることを誓います
- ACTION より多くの仲間を増やしていくことを誓います

代表チームの編成

日本サッカー協会(JFA)は、日本代表チームを頂点に各年代、各カテゴリーで代表チームを編成しています。「JFA2005年宣言」で掲げる通り、世界のトップを目指して強化を進めています。

SAMURAI BLUE(日本代表)

日本国籍を有する選手で構成される日本最高峰のチームで、FIFA(国際サッカー連盟)やAFC(アジアサッカー連盟)などが主催する国際大会での躍進を目指しています。チームの最大の目的は、FIFAワールドカップでの優勝。JFAは、2050年までにFIFAワールドカップで優勝することを宣言しています(「JFA2005年宣言」)。

日本代表が初めてFIFAワールドカップに出場したのは1998年のフランス大会。グループステージで敗退しましたが、初出場にもかかわらず強豪を相手に熱戦を演じました。日本と韓国で開催された2002年大会では2勝1分けでグループステージを突破し、ベスト16の成績を収めました。2006年のドイツ大会はグループステージ敗退に終わりましたが、2010年南アフリカ大会では、2勝1敗でラウンド16に進出。南米の雄・パラグアイにPK戦の末敗れたものの、日本の特長である組織的な守備と結束力を生かした戦いぶりが評価され、32チーム中9位の成績を上げました。

現在は、アルベルト・ザッケローニ監督のもと、5大会連続となる2014年ブラジル大会出場を目指し、オーストラリア、イラク、ヨルダン、オマーンとアジア最終予選を戦っています。

歴代監督一覧(1992年のAFCアジアカップ以降)

名前	期間
ハンス・オフト(オランダ)	1992年 5月~1993年10月
パウロ・ロベルト・ファルカン(ブラジル)	1994年 5月~1994年10月
加茂 周	1995年 1月~1997年10月
岡田 武史	1997年10月~1998年 6月
フィリップ・トルシエ(フランス)	1998年10月~2002年 6月
ジーコ(ブラジル)	2002年 7月~2006年 6月
イビチャ・オシム(オーストリア/ボスニア・ヘルツェゴビナ)	2006年 7月~2007年12月
岡田 武史	2007年12月~2010年 8月
アルベルト・ザッケローニ(イタリア)	2010年 9月~

主要国際大会戦績

開催年	大会名	監督	成績
1968年	メキシコオリンピック	長沼 健	3位(銅メダル)
1992年	AFCアジアカップ(広島)	ハンス・オフト	優勝
1998年	FIFAワールドカップ フランス	岡田 武史	グループリーグ敗退
2000年	AFCアジアカップ(レバノン)	フィリップ・トルシエ	優勝
2001年	FIFAコンフェデレーションズカップ(日本・韓国)	フィリップ・トルシエ	準優勝
2002年	FIFAワールドカップ 日本・韓国	フィリップ・トルシエ	ベスト16
2003年	FIFAコンフェデレーションズカップ(フランス)	ジーコ	グループリーグ敗退
2004年	AFCアジアカップ(中国)	ジーコ	優勝
2005年	FIFAコンフェデレーションズカップ(ドイツ)	ジーコ	グループリーグ敗退
2006年	FIFAワールドカップ ドイツ	ジーコ	グループリーグ敗退
2007年	AFCアジアカップ(タイ・ベトナム・マレーシア・インドネシア)	イビチャ・オシム	4位
2010年	FIFAワールドカップ 南アフリカ	岡田 武史	ベスト16
2011年	AFCアジアカップ(カタール)	アルベルト・ザッケローニ	優勝

U-23日本代表

~第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)

1992年のバルセロナ大会から男子サッカー競技に「23歳以下」という年齢制限が設けられ(※)、U-23日本代表が編成されました。

日本初のオリンピックは1936年のベルリン大会。この時、優勝候補のスウェーデンに勝利するなどしてベスト8に進出、世界大会における歴史を刻みました。その後、1956年のメルボルン大会、1960年の東京大会を経て、1968年のメキシコ大会で銅メダルを獲得。しかし、次に日本がオリンピック出場を果たすまで28年の歳月を要しました。

アトランタ大会に出場したU-23日本代表は、グループステージで敗退するも優勝候補のブラジルを破る快挙を成し遂げ、以来、日本は4大会連続出場を果たしています。

2012年のロンドン大会に出場するチームは2010年10月に編成され、関塚隆監督のもと、第16回アジア競技大会(2010/広州)で優勝。その後も国際親善試合などを重ねて強化を図ってきました。本大会では44年ぶりのメダル獲得を目指し、まずはスペイン、モロッコ、ホンジュラスとのグループステージに臨みます。

オリンピックの戦績(1996年以降)

開催年	大会名	監督	成績
1996年	アトランタ大会	西野 朗	グループリーグ敗退
2000年	シドニー大会	フィリップ・トルシエ	ベスト8
2004年	アテネ大会	山本 昌邦	グループリーグ敗退
2008年	北京大会	反町 康治	グループリーグ敗退
2012年	ロンドン大会	関塚 隆	ベスト4

※1996年のアトランタ大会からは、各チーム3人までの24歳以上の選手の出場を認める「オーバーエイジ枠」を採用

U-19/20日本代表

~FIFA U-20ワールドカップ トルコ 2013

「FIFA U-20ワールドカップ」(2年に1度開催)出場を目指す年代の代表チームです。

現在は「FIFA U-20ワールドカップ トルコ 2013」出場を目標に、吉田靖監督のもと、その予選を兼ねた「AFC U-19選手権 UAE 2012」(11月開催)に向けて強化を進めています。

FIFA U-20ワールドカップの戦績

開催年	開催国	監督	成績
1979年	日本	松本 育夫	グループリーグ敗退
1995年	カタール	田中 孝司	ベスト8
1997年	マレーシア	山本 昌邦	ベスト8
1999年	ナイジェリア	フィリップ・トルシエ	準優勝
2001年	アルゼンチン	西村 昭宏	グループリーグ敗退
2003年	UAE	大熊 清	ベスト8
2005年	オランダ	大熊 清	ベスト16
2007年	カナダ	吉田 靖	ベスト16

※第3回大会(1981年)までは19歳以下の選手が出場

U-18/19日本代表

~第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)

2016年にブラジル・リオデジャネイロで開催されるオリンピック出場を目指す代表チームです。本格的なチームの立ち上げは2014年の予定ですが、JFAでは海外遠征や国際親善試合などで継続的な強化を図っています。

U-16/17日本代表

~FIFA U-17ワールドカップ UAE 2013

「FIFA U-17ワールドカップ」(2年に1度開催)出場を目指す年代の代表チームです。

現在は吉武博文監督のもと、選手の育成・強化を図っており、9月に行われる「AFC U-16選手権 イラン 2012」での2大会ぶり3度目の優勝、さらにその先にある「FIFA U-17ワールドカップ UAE 2013」での飛躍を目指して活動しています。

FIFA U-17ワールドカップの戦績

開催年	開催国	監督	成績
1993年	日本	小嶋 忠敏	ベスト8
1995年	エクアドル	松田 保	グループリーグ敗退
2001年	トリニダード・トバゴ	田嶋 幸三	グループリーグ敗退
2007年	韓国	城福 浩	グループリーグ敗退
2009年	ナイジェリア	池内 豊	グループリーグ敗退
2011年	メキシコ	吉武 博文	ベスト8



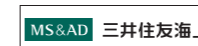
TEAM PARTNERS



OFFICIAL SPONSOR



SUPPORTING COMPANIES



OFFICIAL SUPPLIER



MATCH SPONSOR



代表チームの編成

なでしこジャパン(日本女子代表)

日本国籍を有する女子のトップ選手で構成されるチームで、愛称は「なでしこジャパン」。FIFAやAFCが主催する国際大会、オリンピック女子サッカー競技での飛躍を目指して活動しています。

なでしこジャパンは、女子のサッカーがオリンピックの競技種目になった1996年大会に出場。2000年のシドニー大会は出場を逃しましたがアテネ大会ではベスト8に、2008年の北京大会では、日本女子サッカー史上初の世界大会ベスト4入りを果たしました。FIFA女子ワールドカップも1991年の第1回大会から全大会(6回)に出場。2011年のドイツ大会では、決勝トーナメント1回戦で大会3連覇を狙うドイツを延長の末に破り、準決勝ではスウェーデンを沈めて初の決勝に進出。決勝戦では、アメリカに2度のリードを許しながらも追い付き、120分の激闘の後迎えたPK戦を3-1で制して世界の頂点に立ちました。なでしこジャパンが見せたひたむきな戦いは、東日本大震災に直面した日本国民を元気づけるとともに、世界のサッカーファ

歴代監督一覧

名前	期間
市原 聖曠	1981年 6月~1981年 9月
折井 孝男	1983年 11月~1984年 10月
鈴木 保	1989年12月~1996年 7月
宮内 聡	1997年 6月~1999年 6月
鈴木 保	1999年11月~1999年11月
池田 司信	2000年 5月~2002年 4月
上田 栄治	2002年 8月~2004年 8月
大橋 浩司	2004年12月~2007年 9月
佐々木 則夫	2008年 2月~

主要国際大会戦績

開催年	大会名	監督	成績
1991年	FIFA女子ワールドカップ 中国	鈴木 保	グループリーグ敗退
1995年	FIFA女子ワールドカップ スウェーデン	鈴木 保	ベスト8
1996年	アトランタオリンピック	鈴木 保	グループリーグ敗退
1999年	FIFA女子ワールドカップ USA	宮内 聡	グループリーグ敗退
2003年	FIFA女子ワールドカップ USA	上田 栄治	グループリーグ敗退
2004年	アテネオリンピック	上田 栄治	ベスト8
2007年	FIFA女子ワールドカップ 中国	大橋 浩司	グループリーグ敗退
2008年	北京オリンピック	佐々木 則夫	ベスト4
2011年	FIFA女子ワールドカップ ドイツ	佐々木 則夫	優勝
2012年	ロンドンオリンピック	佐々木 則夫	準優勝(銀メダル)

U-20日本女子代表

～ FIFA U-20女子ワールドカップ ジャパン 2012

「FIFA U-20女子ワールドカップ」(2年に1度開催)出場を目指す、20歳以下の女子選手で編成されるチームです。

吉田弘監督率いる現在のU-20日本女子代表は、AFC U-19女子選手権 ベトナム 2011で大会2連覇を達成。2012年8月に日本で開催される「FIFA U-20女子ワールドカップ」では、地元の応援を力に初優勝を目指します。

FIFA U-20女子ワールドカップの戦績

開催年	開催国	監督	成績
2002年	カナダ	池田 司信	ベスト8
2008年	チリ	佐々木 則夫	ベスト8
2010年	ドイツ	佐々木 則夫	グループリーグ敗退
2012年	日本	吉田 弘	3位

※2002年のカナダ大会、2004年のタイ大会まではU-19で開催

U-17日本女子代表

～ FIFA U-17女子ワールドカップ アゼルバイジャン 2012

「FIFA U-17女子ワールドカップ」(2年に1度開催)出場を目指す、17歳以下の女子選手で編成されるチームです。

吉田弘監督率いるU-17日本女子代表は、AFC U-16女子選手権 中国 2011で3大会ぶり2度目の優勝を果たし、2012年にアゼルバイジャンで行われる「FIFA U-17女子ワールドカップ」の出場権を獲得。準優勝を果たした前回大会の成績を上回る「世界一」の座を目指します。

FIFA U-17女子ワールドカップの戦績

開催年	開催国	監督	成績
2008年	ニュージーランド	吉田 弘	ベスト8
2010年	トリニダード・トバゴ	吉田 弘	準優勝
2012年	アゼルバイジャン	吉田 弘	ベスト8



なでしこvision～世界のなでしこになる。

女子委員会は、日本女子サッカー発展のため、そして、「JFA2005年宣言」を実現するために、「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、女子サッカーに関わるすべての人々が共有し、遂行する3つの目標を定めています。

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。

- ・サッカーを気軽に楽しめ、選手・指導者・審判など、生涯かかわり続けられる環境をつくる。
- ・少女・女性もするスポーツ、そしてみんなから愛される・応援されるスポーツとして女子サッカーの認知度を上げる。
- ・近い将来、FIFA 女子ワールドカップを日本で開催する。
2015年、女子のプレーヤーを300,000人にする。

2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする。

- ・U-20/U-17 ワールドカップに出場。ひとつでも多くの試合を経験し、メダルを目指す。
- ・ワールドカップ/オリンピックに出場し、メダルを獲得する。
2015年、FIFA女子ワールドカップで優勝する。

3. 世界基準の「個」を育成する。

- ・なでしこジャパンにつながる、タレントの発掘・育成システムを充実させる。
- ・女子に携わる指導者のレベルアップを図る。

フットサル日本代表

～ FIFA フットサルワールドカップ タイ 2012

「FIFAフットサルワールドカップ」(4年に1度開催)出場を目指すフットサル代表チームです。

フットサル日本代表が初めてFIFAフットサルワールドカップに出場したのは2004年(当時はFIFAフットサル世界選手権)。AFCフットサル選手権で準優勝してその切符を手に入れました。

スペイン人のミゲル・ロドリゴ監督のもと、AFCフットサル選手権 UAE 2012で3大会ぶり2度目の優勝を果たし、現在、3大会連続出場となるFIFAフットサルワールドカップ(タイ/11月開催)での飛躍を目指して強化を進めています。

FIFAフットサルワールドカップの戦績

開催年	開催国	監督	成績
1989年	オランダ	宮本 征勝	グループリーグ敗退
2004年	チャイニーズ・タイペイ	セルジオ・サッポ	グループリーグ敗退
2008年	ブラジル	セルジオ・サッポ	グループリーグ敗退
2013年	タイ	ミゲル・ロドリゴ	ベスト16

ビーチサッカー日本代表

～ FIFAビーチサッカーワールドカップ タヒチ 2013

FIFAビーチサッカーワールドカップは2005年に第1回大会が開催され、日本は招待国として参加。ラモス瑠偉監督のもと、初出場でも4位の成績を収めました。以降、全大会(6回)に出場し、2006年と2009年にはベスト8に進出。現在は、再びラモス瑠偉監督が指揮を執り、2013年にタヒチで開催される本大会を目指してレベルアップを図っています。

FIFAビーチサッカーワールドカップの戦績

開催年	開催国	監督	成績
2005年	ブラジル	ラモス瑠偉	ベスト4
2006年	ブラジル	鳥飼 浩之	ベスト8
2007年	ブラジル	ネネン	グループリーグ敗退
2008年	フランス	河原塚 毅	グループリーグ敗退
2009年	UAE	ラモス瑠偉	ベスト8
2011年	イタリア	ラモス瑠偉	グループリーグ敗退

(各年代のチーム名および概要は2012年7月現在)

各カテゴリー代表チームの国際大会一覧

男子



女子



※2006年まで、名称はFIFA U-20女子世界選手権

※2012年7月1日現在

全国リーグ・主要大会

日本サッカー協会(JFA)の主要事業の一つが、全国リーグの主催と運営です。
第1種のリーグは、日本トップレベルのリーグであるJリーグ、その下にアマチュア最高峰の日本フットボールリーグがあります。
女子のトップリーグは日本女子サッカーリーグ(プレナスなでしこリーグ)、
フットサルの全国リーグとして日本フットサルリーグ(Fリーグ)が開催されています。

Jリーグを頂点にピラミッドを形成

日本サッカーはJリーグを頂点に、その下にJFL、地域リーグ(9地域)、都道府県リーグ(47都道府県)と、ピラミッド型のリーグ構造を形成しています。
将来的にJリーグ入会を目標に活動するクラブも増えてきたことから、JFAはJリーグとともに国内全体のリーグ構造を含めたJリーグの将来構想を定め、2006年にJ2入会基準やクラブづくりの具体例を示す「Jリーグ準加盟制度」を創設しました。



Jリーグ (J1・J2)

日本のトップ・プロリーグ



Jリーグは1991年、日本初のプロサッカーリーグとして10クラブが加盟して誕生。リーグ戦は1993年5月に開幕しました。1999年から1・2部制を導入し、現在はJ1・18クラブ、J2・22クラブの40クラブにまで増加。ホームタウンは29都道府県に広がり、日本サッカー全体のレベルアップに寄与しています。
現在は、J1・J2ともホーム&アウェイによる2回戦総当たりのリーグ戦方式で行われ、J2の上位2チームはJ1へ自動昇格、J1の下部3チームはJ2に降格となります。

J1の上位3チームは、アジアのクラブ王者を決定する「AFCチャンピオンズリーグ」に出場でき、この大会で優勝すると、各大陸のクラブ王者が出場する「FIFAクラブワールドカップ」の出場権が得られます。また、J1の18チームが出場するカップ戦「Jリーグヤマザキナビスコカップ」も開催されており、この大会を制すると「スルガ銀行チャンピオンシップ Jリーグヤマザキナビスコカップ/コパ・スダメリカーナ王者決定戦」に出場する機会を得ます。



日本フットボールリーグ (JFL)



アマチュア最高峰のリーグ・Jリーグへの登竜門

日本フットボールリーグ(JFL)は、Jリーグに次ぐアマチュアサッカーの最高峰のリーグで、Jリーグ入りを目指す地域のクラブチームや企業チームなど17チームが参加してホーム&アウェイによる2回戦総当たりのリーグ戦を行っています。
日本サッカーがプロ化する以前は、企業チームが加盟する「日本サッカーリーグ/JSL」が日本サッカーのトップレベルを支えてきましたが、Jリーグが誕生してからは、「ジャパンフットボールリーグ/JFL」がアマチュアサッカーをけん引してきました。
現在のJFLは、Jリーグに1・2部制が導入された1999年に9チームでスタート。アマチュアクラブの日本一を決すると同時に、プロを目指すクラブにとってはJリーグの登竜門となっています。



日本フットボールリーグ

日本フットサルリーグ (Fリーグ2012 powered by ウイダーinゼリー)



フットサルの普及と強化をもたらす日本フットサルリーグ

日本フットサルリーグ(Fリーグ)は、フットサル初の全国リーグとして2007年、8チームで開幕しました。現在は10チームによる3回戦総当たりのホーム&アウェイおよびセントラル方式で行われています。2012シーズンからは、競技力の向上とリーグの活性化を狙い、上位3チームがプレーオフを行って優勝チームを決定する方式に変更。優勝チームは「AFCフットサルクラブ選手権」でアジアの舞台に挑むことができます。
また、Fリーグ加盟の10チームとFUTSAL地域チャンピオンズリーグ優勝・準優勝のチームが参加するFリーグテバオーシャンアリーナカップも開催されています。



日本フットサルリーグ

日本女子サッカーリーグ (プレナスなでしこリーグ)



日本の女子サッカーをけん引するトップリーグ

日本女子サッカーリーグは、1989年に6チームでスタートしました。なでしこジャパン(日本女子代表)の活躍や女子サッカーの普及を推進するさまざまな施策によってチーム数が増加し、2004シーズンから2部制を導入。2010シーズンからは10チームによる「なでしこリーグ」とその下位カテゴリーにあたる「チャレンジリーグ」(12チーム)に再編成され、リーグ戦を行っています。
両リーグとも2回戦総当たりで行われ、なでしこリーグ10位チームとチャレンジリーグ1位チームは自動入替、なでしこリーグ9位チームとチャレンジリーグの2位チームはホーム&アウェイの入替戦を行います。また、地域リーグとチャレンジリーグとの入れ替えも行っています。
なでしこリーグのチームが参加する「プレナスなでしこリーグカップ」も開催されています。

【加盟チーム種別全国大会】



第1種 (年齢制限なし)

年齢制限のないカテゴリーで、Jリーグに所属するプロクラブや社会人チーム、大学チーム、クラブチーム、専門学校チームなどがあり、それぞれの全国大会を開催しています。

- ・天皇杯全日本サッカー選手権大会
- ・Jリーグ(※)
- ・日本フットボールリーグ(JFL)(※)
- ・全国社会人サッカー選手権大会
- ・全国地域サッカーリーグ決勝大会
- ・プレ・マスターズ35歳以上サッカー大会(2012年度のみ)
- ・日本スポーツマスターズ(35歳以上、2013年度より)
- ・全日本大学サッカー選手権大会
- ・総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント
- ・デンソーカップチャレンジサッカー
- ・国民体育大会(サッカー競技)
- ・全国クラブチームサッカー選手権大会
- ・全国専門学校サッカー選手権大会
- ・全国高等専門学校体育大会/全国高等専門学校サッカー選手権大会

(※)前項参照



天皇杯全日本サッカー選手権大会

天皇杯全日本サッカー選手権大会(以下、天皇杯)はプロ、アマチュアを問わず第1種と第2種に加盟する、5000を超えるチームが参加して行われています。決勝大会には47都道府県代表、JFLシード、そしてJ1、J2のチームが参加、元日の国立競技場での優勝を目指します。

天皇杯の歴史は1921年に創設された「ア式蹴球全国優勝競技会」から始まります。第二次世界大戦が終わった翌年の1946年には「復興第1回全日本サッカー選手権大会」として開催されました。翌47年4月に東西対抗が天皇陛下、皇太子殿下がご臨席の下に行われたことがきっかけとなり、翌年、団体競技で最初となる天皇杯が下賜されました。天皇杯は50年まで東西対抗の勝者に授与されていましたが、51年から全日本選手権の優勝チームに授与されることになりました。元日に決勝戦が行われるようになったのは1968年(第48回大会)から。優勝したチームにはAFCチャンピオンズリーグの出場権が与えられます。

第2種 (U-18)

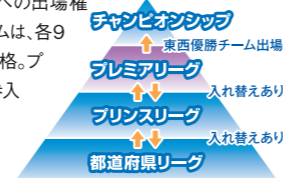
18歳未満の選手により構成されるチームです(高校在学中の選手には年齢制限は適用されません)。大別して、公益財団法人 全国高校体育連盟所属の高校チームと日本クラブユースサッカー連盟所属のクラブユースチームがあり、下記の全国大会によって日本一を決定しています。

- ・高円宮杯U-18サッカーリーグ
(チャンピオンシップ、プレミアリーグ、プリンスリーグ、都道府県リーグ)
- ・国民体育大会(サッカー競技)
- ・日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会
- ・Jリーグユース選手権大会
- ・全国高等学校サッカー選手権大会
- ・全国高等学校総合体育大会(サッカー競技)



高円宮杯U-18サッカーリーグ

高円宮杯U-18サッカーリーグは、前身の高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会として1990年、日本サッカーの将来を担う18歳以下の選手のサッカーの技術向上と健全な心身の育成を図ることを目的にスタートしました。2010年大会までは約1か月の短期集中で開催していましたが、2011年度からプレミアリーグを頂点に、プリンスリーグ(9地域)、都道府県リーグと、ピラミッド型のリーグ構造に生まれ変わりました。プレミアリーグには全国から選出された20チームが参加。東西10チームに分けてホーム&アウェイ方式の総当たり戦を実施し、東西リーグの優勝チームは高円宮杯U-18サッカーリーグ チャンピオンシップへの出場権が与えられます。また、それぞれの下位2チームは、各9地域で行われているプリンスリーグに自動降格。プリンスリーグ優勝チームは、プレミアリーグ参入戦を戦い、勝利した4チームが次年度のプレミアリーグの出場資格を獲得します。



第3種 (U-15)

15歳未満の選手により構成されるチームです(中学校在学中の選手には年齢制限は適用されません)。大別して、公益財団法人 日本中学校体育連盟所属の中学校チームと日本クラブユースサッカー連盟所属のクラブユースチームがあります。第3種年代の真の日本一を決する大会のほか、各連盟の日本一を決する大会などが開催されています。

- ・高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会
- ・国民体育大会(サッカー競技)
- ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会
- ・全国中学校体育大会/全国中学校サッカー大会
- ・JFAプレミアカップ
- ・日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)

第4種 (U-12)

12歳未満の選手により構成されるチームです(小学校在学中の選手には年齢制限は適用されません)。JFAは、子どもたちが試合を楽しみ、ボールに触れる回数を増やすべく少人数制サッカーを推奨しており、2011年度から「全日本少年サッカー大会」は8人制サッカーとなりました。

- ・全日本少年サッカー大会

女子

女子の選手により構成されるチームです。プレナスなでしこリーグのほか、各年代の大会や愛好者を対象とした大会を開催しています。

- ・全日本女子サッカー選手権大会
- ・日本女子サッカーリーグ(プレナスなでしこリーグ)(※)
- ・国民体育大会(サッカー競技)
- ・全日本大学女子サッカー選手権大会
- ・全国高等学校総合体育大会(サッカー競技)
- ・全日本高等学校女子サッカー選手権大会
- ・全日本女子ユースサッカー選手権大会
- ・全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会
- ・全国レディースサッカー大会
- ・全国レディースサッカー大会レディース・エイト(40歳以上)オープン大会

(※)前項参照

シニア

40歳以上の選手により構成されるチームです。シニア登録は2000年度から始まり、年代ごとに大会を実施しています。

- ・全国シニア(50歳以上)サッカー大会
- ・全国シニア(60歳以上)サッカー大会
- ・シニア(70歳以上)サッカーフェスティバル
- ・日本スポーツマスターズ(40歳以上、2012年度まで)
- ・全国シニア(40歳以上)サッカー大会(2013年度より)

フットサル

フットサルの個人登録をした選手により構成されるチームです。カテゴリーとしての年齢、性別による分けはありませんが、下記の通りさまざまな国内大会が開催されています。また、チーム登録は大会ごとに行われています。

- ・PUMA CUP全日本フットサル選手権大会
- ・日本フットサルリーグ(Fリーグ)(※)
- ・全日本大学フットサル大会
- ・全日本ユース(U-15)フットサル大会
- ・バーモントカップ全日本少年フットサル大会
- ・全日本女子フットサル選手権大会
- ・全日本女子ユース(U-15)フットサル大会

(※)前項参照

ビーチサッカー

サッカーの選手登録もしくはフットサルの個人登録をした選手により構成されるチームです。2006年から全国大会を開催しています。

- ・全国ビーチサッカー大会

※年齢は、当該年度開始の前日(3月31日)現在の年齢

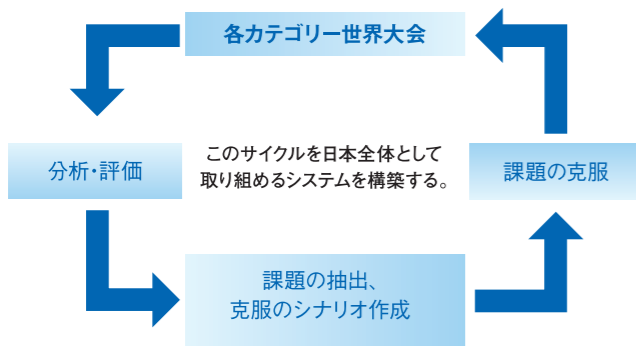
世界トップ10を目指して

日本サッカー協会(JFA)では、技術委員会が掲げる「世界を基準とした強化策の推進」のもと、選手の育成と指導者の養成に力を注いでいます。
また、審判員の養成においても審判委員会が中心となってさまざまな施策に取り組んでいます。

選手育成・指導者養成

世界の強豪国と肩を並べるための強化システム

技術委員会では、日本代表チームの出場有無にかかわらず、FIFAが主催する各カテゴリーの世界大会を分析・評価し、日本の課題を抽出しています。ここで見いだされた課題は、ユース育成や指導者養成の現場にフィードバックされ、日本全体の底上げを図るとともに、各カテゴリー日本代表チームの強化につなげています。



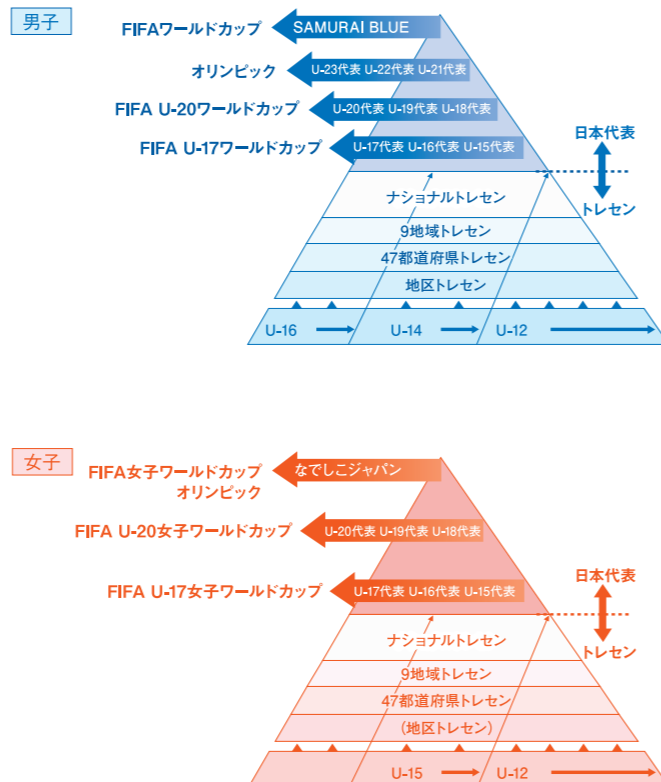
三位一体+普及の強化策

三位一体の強化策とは、「代表強化」「ユース育成」「指導者養成」の3つの部門が密接な連携を持って選手の強化育成と日本サッカーのレベルアップを図る施策です。
また、その強化策を支える「普及」も日本サッカー発展のための重要な要素。サッカーファミリーの拡大や選手を取り巻く環境を向上させ、サッカー文化を定着させようとして取り組んでいます。



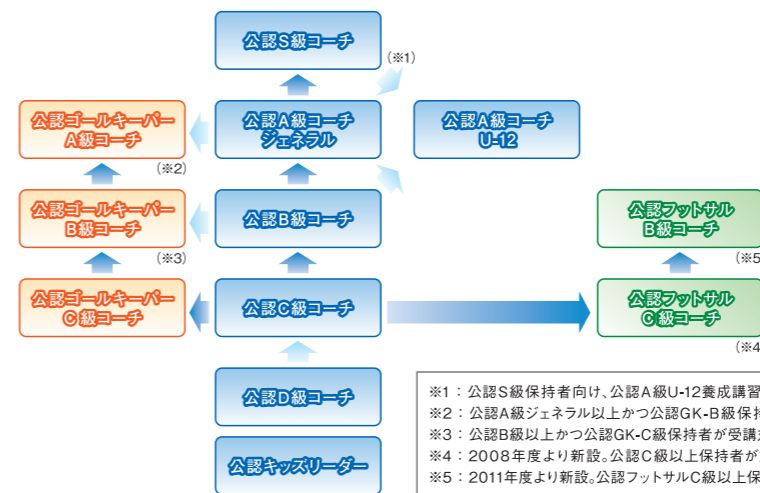
◆ユース育成～トレセン制度

日本のユース育成において中心的役割を果たしているのが日本型選手育成システム「トレセン制度」です。日本サッカーの強化・発展のため、将来、日本代表選手となり得る優秀な人材を発掘し、良い環境と良い指導を与えることを目的に全国各地で行われています。JFA主導のナショナルトレセンは、U-12・U-14・女子U-15のカテゴリーで開催されています。



◆指導者養成

良い選手を育成するには有能な指導者が不可欠であることから、JFAは指導者資格(ライセンス)付与制度にも力を注いでいます。10歳以下の子どもにスポーツ、サッカーの楽しさを伝える「キッズリーダー講習会」や12歳以下の選手の指導方法を学ぶ「C級(D級)コーチ養成講習会」など、レベルに応じた指導者講習会を全国各地で開催しています。
また、育成年代では、豊かな人間性や社会性、国際性を養うことが重要なことから、2010年より、育成に携わる指導者を対象に海外研修を実施、また、海外から優秀な指導者を招いて研修会を開催しています。



- ※1：公認S級保持者向け、公認A級U-12養成講習会ショートコースあり
- ※2：公認A級ジェネラル以上かつ公認GK-B級保持者が受講対象(公認A級U-12は対象外)
- ※3：公認B級以上かつ公認GK-C級保持者が受講対象
- ※4：2008年度より新設。公認C級以上保持者が対象
- ※5：2011年度より新設。公認フットサルC級以上保持者が対象

育成年代におけるキーワード

【Players First!】

「Players First!」。プレーヤーを第一に考えることは、選手育成を考える上で忘れてはいけない大切な合言葉です。指導者、審判員、保護者などサッカーにかかわる人は常に、選手たちにとって何が一番良いことなのかを考える必要があります。

【リーグ化の推進】

JFAは、選手たちが年間を通じて試合を経験できるようリーグ化を進めています。試合に敗れてもまた次に挑戦できるリーグ戦は、選手にとってチャレンジする機会が増えるだけでなく、ゲームや一つのプレーを深く理解することにもつながります。

【少人数制サッカーの推奨】

JFAは、U-12年代において少人数制サッカーを推奨し、2011年度からJFA主催の第4種大会を8人制で実施しています。少人数制サッカーは11人制に比べてボールに触れる回数が増え、シュート数は約3倍に増加するというデータがあり、スキルの習得に最適とされるゴールデンエイジ(10～12歳)に、自然にさまざまな技術や能力を身につけさせることができます。

JFAアカデミー(福島、熊本宇城、堺)

真の意味での“エリート”育成を目指して

JFAアカデミーは、「世界基準」をキーワードに個の育成に取り組む教育機関です。

JFAアカデミーの選手はロジング(寄宿)生活をしながら、優秀な指導者のもとでサッカー活動に励みます。生徒は、年代に適したトレーニングを受けながら、人間性を育む教育やリーダー教育、ロジカルコミュニケーションスキル、外国語の習得などを通じて社会性や国際性を育みます。

2006年に福島校、2009年に熊本宇城校、2012年に堺校が開校。2012年6月現在、総勢186人が在籍しています。在校生にはユース年代の日本代表に選出される選手も出てきており、卒業後は海外クラブやJリーグ、なでしこリーグなどに活動の場を移し、さらなる成長をみせています。

JFAは、社会の先頭を立て国際社会に貢献できるリーダーを輩出するとともに、このプログラムを広くスポーツ界や教育界にも影響を与えるものにしていきたいと考えています。



JFAアカデミーの概要

	JFAアカデミー福島	JFAアカデミー熊本宇城	JFAアカデミー堺
対象	男子・女子	男子のみ	女子のみ
活動期間	中学1年生～高校3年生(6年間)	中学1年生～3年生(3年間)	中学1年生～3年生(3年間)
在籍人数	男子86人、女子35人	53人	12人
卒校生	男子13人、女子23人	15人	-
活動概要	・全寮制(ロジング制) ・長期休暇時に帰宅	・平日のみ寮生活 ・毎週末および長期休暇時に帰宅	・平日のみ寮生活 ・毎週末および長期休暇時に帰宅
チーム登録	・アカデミーでチーム登録し、公式戦に出場	・アカデミーでのチーム登録なし ・各々地元チームに所属し、そのチームの一員として公式戦に出場	・アカデミーでのチーム登録なし ・各々地元チームに所属し、そのチームの一員として公式戦に出場
所在地	静岡県御殿場市 (東日本大震災と原発事故の影響により福島県双葉郡から一時移転)	熊本県宇城市	大阪府堺市

審判員養成

審判員資格

JFAあるいはその傘下にあるサッカー協会が主催する試合、さらにはFIFA主催試合の審判を務めるためには審判員資格が必要です。審判員資格には、JFAが認定する1級、女子1級(サッカーのみ)、各地域サッカー協会が認定する2級、各都道府県サッカー協会が認定する3級、4級があります。

2007年からは、インターネット上で更新講習を受講できるJFAラーニングによるサッカー4級審判更新講習会を開始、2008年にはフットサル4級審判更新講習会も行えるようにし、審判員の受講機会を増やすとともに、利便性を向上させ、4級審判員の更新率アップを図っています。また、審判員の資格取得、更新に年齢の制限はありません。審判をする能力があれば12歳未満でも、60歳以上でもそれぞれの資格に応じ審判の活動を行うことができます。



[サッカー] ()内は受験資格

1級審判員(2級および女子1級審判員)

1級審判員は、JFAが主催等するサッカー競技の試合の主審を行う技能があると判断される審判員です。

女子1級審判員(2級の女性審判員)

女子1級審判員は、JFA管轄の第2種、第3種、第4種および女子の試合の主審を行う技能があると判断される審判員です。

2級審判員(3級審判員)

2級審判員は、地域サッカー協会が主催する試合の主審を行う技能があると判断される審判員です。

3級審判員(4級審判員)

3級審判員は、都道府県サッカー協会が主催する試合の主審を行う技能があると判断される審判員です。

4級審判員(心身ともに健康な者)

4級審判員は、都道府県サッカー協会を構成する支部・地区/市区郡町村サッカー協会の傘下の団体、連盟等が主催する試合の主審を行う技能があると判断される審判員です(特に優れた技能を有すると都道府県サッカー協会の審判委員会によって認められた者は、都道府県サッカー協会主催の試合において主審を行うことができます)。

[フットサル] ()内は受験資格

フットサル1級審判員

(フットサル2級審判員、サッカー1級・女子1級審判員)
フットサル1級審判員は、JFAが主催するフットサル競技の試合の主審および第2審判を行う技能があると判断される審判員です。

フットサル2級審判員(フットサル3級審判員、サッカー2級審判員)

フットサル2級審判員は、地域サッカー協会が主催するフットサル試合の主審および第2審判を行う技能があると判断される審判員です。

フットサル3級審判員(フットサル4級審判員、サッカー3級審判員)

フットサル3級審判員は、都道府県サッカー協会が主催するフットサル試合の主審および第2審判を行う技能があると判断される審判員です。

フットサル4級審判員(心身ともに健康な者)

フットサル4級審判員は、都道府県サッカー協会を構成する支部および地区/市区郡町村サッカー協会の傘下の団体、連盟等が主催するフットサル試合の主審および第2審判を行う技能があると判断される審判員です(特に優れた技能を有すると都道府県サッカー協会の審判員によって認められた審判員は、都道府県サッカー協会主催のフットサル試合において主審および第2審判を行うことができます)。



世界トップ10を目指して

◆2012年国際審判員

国際審判員や女子国際審判員は1級・女子1級審判員から、フットサルおよびビーチサッカー国際審判員はフットサル1級審判員の中から選出してFIFAに推薦し、その後FIFAに認定された者が国際試合を担当することができます。

2012年国際審判員

<p><国際主審> 7名 飯田 淳平、家本(當麻) 政明、佐藤 隆治、高山 啓義、東城 稜、西村 雄一、山本 雄大</p> <p><国際副審> 9名 五十嵐 泰之、入部 進、大塚 晴弘、相樂 亨、田尻 智計、名木 利幸、西尾 英朗、宮島 一代、八木あかね</p> <p><国際女子主審> 4名 梶山 美紗子、佐藤 奈美、深野 悦子、山岸 佐知子</p> <p><国際女子副審> 4名 鮎貝 志保、大島 千枝、高橋 早織、千葉 恵美</p> <p><フットサル国際審判員> 4名 延本 泰一、大黒 裕之、小崎 知広、宮谷 直樹</p> <p><ビーチサッカー国際審判員> 2名 櫻田 雅裕、小野寺 祐</p>	<small>※50音順</small> 2012年7月現在
---	-----------------------------------

主要世界大会での日本人審判員の活躍

年	大会名	参加審判員
1964年	東京オリンピック	福島 玄一、横山 陽三(主審)、浅見 俊雄、早川 純生、池田 太郎、丸山 義行、佐藤 弘(線審)
1968年	メキシコオリンピック	丸山 義行
1970年	FIFAワールドカップ メキシコ	丸山 義行
1984年	ロサンゼルスオリンピック	佐野 敏一
1986年	FIFAワールドカップ メキシコ	高田 静夫
1988年	ソウルオリンピック	高田 静夫
1990年	FIFAワールドカップ イタリア	高田 静夫
1992年	バルセロナオリンピック	笹 喜一郎
1995年	FIFA女子ワールドカップ スウェーデン	吉澤 久恵(線審)
1998年	FIFAワールドカップ フランス	岡田 正義
1999年	FIFA女子ワールドカップ アメリカ	吉澤 久恵(副審)
2000年	シドニーオリンピック	吉澤 久恵(副審)
2000年	FIFAフットサルワールドカップ グアテマラ	鈴木 亮哉
2002年	FIFAワールドカップ 日本・韓国	上川 徹
2003年	FIFA女子ワールドカップ アメリカ	吉澤 久恵(副審)
2004年	アテネオリンピック	鮎貝 志保(副審)
2004年	FIFAフットサルワールドカップ チャイニーズタイペイ	五十川 和也
2006年	FIFAワールドカップ ドイツ	上川 徹(主審)、廣嶋 祐数(副審) ※3位決定戦で主審と副審
2007年	FIFA女子ワールドカップ 中国	大岩 真由美(主審)、吉澤 久恵(副審)
2008年	FIFAフットサルワールドカップ ブラジル	五十川 和也
2008年	FIFAビーチサッカーワールドカップ マルセイユ	小野寺 祐
2010年	FIFA ワールドカップ 南アフリカ	西村 雄一(主審)、相樂 亨(副審) ※決勝で第4の審判員と控えの副審
2011年	FIFA女子ワールドカップ ドイツ	深野 悦子(主審)、高橋 早織(副審)
2012年	ロンドンオリンピック	西村 雄一(主審)、相樂 亨、名木 利幸(副審)、山岸 佐知子(主審)、高橋 早織(副審)

※FIFAワールドカップとオリンピックのみ掲載

審判インストラクター

JFAは2004年度に「JFA審判インストラクター認定講習会」を設置しました。審判員の育成に携わる審判インストラクターにも資格が与えられています。S級・1級審判インストラクターはJFAが、2級審判インストラクターは地域サッカー協会が、3級審判インストラクターは都道府県サッカー協会が主催する講習会や研修会において、審判員や下位の審判インストラクターの指導に当たります。

トップレフェリー育成の取り組み

日本を代表するレフェリーを育成するため、プロフェッショナルレフェリー制度やJFAレフェリーカレッジ、審判トレーニングセンター制度などの施策に取り組んでいます。

◆プロフェッショナルレフェリー制度

トップレフェリーが審判活動に専念できる環境を整備することを目的に、2002年から「審判活動最優先の生活環境を自ら整え、その生活を選択する強い意志を有し、十分な審判経験があり、高い技能を継続的に発揮できるレフェリー」とプロフェッショナル契約を結んでいます。

プロフェッショナルレフェリーは、審判活動によって主な収入を得ており、トップレフェリーインストラクターや審判フィジカルトレーナーのもと、日々レベルアップに励んでいます。2006年以降は、地域・都道府県サッカー協会の審判研修会などに赴き、実際に講義を行うことで全国の審判員を啓発し、全体的な審判レベル向上の一翼を担っています。

現在は、主審10人、副審3人とプロフェッショナル契約を結んでいます。



◆JFAレフェリーカレッジ



「JFAレフェリーカレッジ」は2004年1月に開講しました。将来性があると判断された若いレフェリー(若手2級審判員)を短期間でトップレフェリーに養成することを目的としています。レフェリーカレッジインストラクターのもと、受講生は年20回の定期講習や年4回の集中講習をへて、2年間で1級審判員を取得し、将来は国際審判員などのトップレフェリー候補者となることを目指しています。

JFAレフェリーカレッジに入学するには、地域サッカー協会審判委員会の推薦を得てJFAに認定される方法と、地域の審判トレーニングセンター参加者の中から推薦される方法があります。

◆審判トレーニングセンター制度

審判員や審判インストラクターの強化育成を図ることを目的とした「審判トレーニングセンター制度」(審判トレセン)は2007年度にスタートしました。各地域・都道府県の審判インストラクターおよびトップレフェリーを対象に行われ、審判トレーニングセンター・ダイレクターによる講義や実技講習を通じた審判技術のレベルアップ、優秀な審判員の発掘を狙っています。

審判交流プログラム

JFAは各国サッカー協会と「審判交流プログラム」を実施し、各国の審判員を招へい、また日本から派遣するなど、両国間の審判員のレベルアップに取り組んでいます。

〔審判交流プログラム実績〕

- 2010年: オーストラリア、イングランド、ポーランド
- 2011年: イングランド、中国
- 2012年: パラグアイ、イングランド、中国
- 2013年: イングランド、ポーランド (2013年7月現在)

グリーンカード

グリーンカードは、フィールドにいる競技者全員を対象に、フェアプレーかつリスペクト溢れる行動をした際、称賛や感謝を示す一つの方法です。JFAはU-12年代以下の試合において、グリーンカードの積極的な使用を推奨しています。子どもたちはサッカーを通して「全力を尽くすこと」「助け合うこと」「フェアに戦い、仲間を大切にすること」「サッカーを楽しむ環境を与えてくれる人に感謝すること」を学びます。



パートナーシップ協定の締結 ～両国のサッカー発展を目指す

JFAは現在、フランスサッカー連盟、スペインサッカー連盟、シンガポールサッカー協会、ドイツサッカー連盟とパートナーシップ協定を締結しています。両国のサッカー発展のため、指導者養成や選手の強化育成、運営、法務、マーケティングなど、さまざまな分野において有益な情報や専門知識などを共有しながら、積極的な相互協力を図っています。



JFAの社会貢献活動

JFAこころのプロジェクト

一人でも多くの子どもたちに、
夢を持つことの素晴らしさを伝えたい



「いじめや自殺に走らない強い心を持った子どもを育てるのに、サッカー界が手助けすることができるはず」。JFAは、サッカー界が一丸となって子どもたちの健全な心身の成長を後押ししようと、2007年にJFAこころのプロジェクト「夢の教室」をスタートさせました。

日本代表やJリーグ、なでしこリーグ、JFL、Fリーグなどに所属するサッカー選手やそのOB/OGをはじめ、サッカー以外のスポーツ選手およびOB/OG、タレントらが「夢先生」(通称:ユメセン)となって教壇に立ち、夢や目標を持つことの素晴らしさやフェアプレー精神、助け合いの重要性などを伝えます。

スタート当初は関東圏を中心に実施していましたが、現在では、全47都道府県のほか海外にも活動の場を広げています。

東日本大震災に見舞われた2011年には、日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本トップリーグ連携機構とともに「スポーツこころのプロジェクト」を立ち上げ、被災地の希望する全小学校で「スポーツ笑顔の教室」を実施しています。

2012年、スタートから5周年を迎えたJFAこころのプロジェクトは、2011年度末までに1,351校、3,378回の授業を実施。参加児童・生徒数は10万人を超えました。JFAは、これからも全国各地の子どもたちに夢について考えるきっかけを与え、失敗や挫折に負けることなく未来を切り開いてほしいと願っています。

◆「夢の教室」

夢の教室は、主に小学5年生を対象に90分で行います。前半の35分は「ゲームの時間」。子どもたちと体を動かしながら、フェアプレー精神や仲間と協力することの大切さ、相手を思いやる心を育みます。後半の55分は「トークの時間」。夢先生の体験談をもとに、夢を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さを伝えます。



◆JFAメソッド

本プロジェクトでは、プロジェクト全体の質を高め、情報やノウハウを共有し、常に改善・向上していくことを目的に、授業の準備から事後の評価までの一連の流れをデータベース化し、フィードバックしています。この仕組みを「JFAメソッド」と呼んでいます。JFAメソッドにより、質の高い授業と盤石な運営体制が維持され、全国各地に拡大させることが可能になります。

◆自治体との相互協力

2009年度から「受益者負担」の考えの浸透を目指し、クラブのホームタウン以外の地域において、自治体との協定締結を推進しています。自治体に実質的に経費を負担してもらうことで、より多くの学校で継続的に「夢の教室」を実施できるようになります。

JFAこころのプロジェクト ホームページ

<http://www.yumesen.jp/>

スポーツこころのプロジェクト ホームページ

<http://www.sports-kokoro.jp/>



環境プロジェクト

サッカーファミリーで地球温暖化を食い止めよう

JFAは2005年6月より、地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」に参加してきました。同活動は2010年1月、よりCO₂削減に向けた運動「チャレンジ25キャンペーン」に生まれ変わりましたが、JFAは引き続きその主旨に賛同し、6つのチャレンジのもと環境活動を展開しています。

2007年度には、JFAとJリーグ関係者、有識者からなる「環境プロジェクト」を立ち上げました。サッカー界として地球環境保全に貢献すべく、試合会場でのリサイクル活動や公共機関の利用促進、芝生化のPRなどを体系的に推し進めています。

チャレンジ25キャンペーン ホームページ

<http://www.challenge25.go.jp/>

◆スタジアムでの環境活動

JFAは、スタジアムのできる環境保全活動として2003年から「クリーンサポーター活動」を行っています。

この活動は試合終了後に観客が参加して行う清掃活動で、活動に賛同する「クリーンサポーター」の協力を得て、会場のゴミの回収・分別を行います。また、日本代表戦が行われるスタジアムでは、キリングroupより提供された紙コップを使用し、専用のゴミ箱を設置。紙コップを回収してリサイクルを進めています。



東日本大震災 復興支援 がんばろうニッポン!



JFAは、「がんばろうニッポン!〜サッカーファミリーのチカラをひとつに!」の合言葉のもと、東日本大震災の復興支援活動に取り組んでいます。

JFAでは、復興のためのチャリティーマッチやサッカー教室などのイベントを開催するほか、専用の口座を設置して義援金やサッカー復興の支援金を募るなど、被災地の復興や被災地におけるサッカー活動をサポートしています。また、FIFAをはじめとする世界のサッカーファミリーや日本代表の支援企業などの協力も得て、サッカー用具の提供やサッカー施設の整備なども行っています。

サッカーの力も絆も非常に強固なものです。JFAはサッカーを通じて被災地の復興に力を注いでいく考えです。



「国連グローバル・コンパクト」への参加

JFAは2009年7月7日、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に国内93番目の企業・団体として、スポーツ統括団体では世界で初めて登録されました。

国連グローバル・コンパクトとは、経済のグローバル化に伴い、富の不平等化が深刻化した国際社会の各種問題(貧富の差の縮小・環境保護・社会的差別解消など)に立ち向かうべく創設された「国連機関・民間企業・非営利団体等のプラットフォーム」。各企業・団体などが責任を持ち、自主的・創作的・協調的なリーダーシップを発揮することにより、持続可能な成長を世界レベルで実現していくものです。世界中で愛されているサッカーは、国際社会にも大きな影響力を持っています。JFAは、JFAの理念に基づくさまざまな活動が国連グローバル・コンパクトに合致しているとして参加。サッカーを通じて国際的な課題の解決と次世代の人材育成に寄与していきたいと考えています。

「早寝早起き朝ごはん」国民運動に協力



JFAは、文部科学省が推進する「早寝早起き朝ごはん」国民運動に賛同し、協力しています。

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。しかし、最近では基本的な生活習慣の乱れが、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘され、社会が一丸となって取り組むべき重要な課題となっています。

JFAは、子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる運動を積極的に展開していきます。

JFAの国際貢献活動

「サッカーを通じて子どもたちに明るい未来を与え、アジアサッカーの普及・発展につなげたい」。
日本サッカー協会(JFA)は、47の国と地域が加盟するアジアサッカー連盟(AFC)のモデル協会として、AFC加盟協会に対するさまざまなアジア貢献事業を行っています。

公認指導者・審判インストラクターの海外派遣

JFAの持つ代表の強化策やユース育成、指導者および審判員の養成、普及に関するノウハウにアジア各国は高い関心を示しており、それらを伝授する指導者や審判インストラクターの派遣が求められています。

JFAは1999年以降、アジアを中心とした多くの国と地域に指導者や審判インストラクターを派遣してきました。2006年からは、一部を国際協力機構(JICA)が行う青年海外協力隊やシニアボランティアなどの事業と連携して実施しています。求められる内容や派遣条件はそれぞれ異なりますが、相手国のさまざまな事情を勘案しながら最善の方法で適宜柔軟に対応しています。

経験豊富で熱意あふれる彼らの活動はいずれの国でも好評で、JFAに寄せられる要請の数は年々増加しています。

派遣者実績一覧

派遣国	派遣者
カンボジア	手島 淳(○)、唐木田 徹(○)、吉岡 大介(○)
北マリアナ諸島	神戸 清雄、関口 潔、山中 亮、鈴木 隣
キルギス	八橋 健一(○)
グアム	神戸 清雄、築館 範男、内田 一夫
シリア	曾根 純也(○)、稲橋 徳彦(○)、長谷川 晃(○)、屋良 充紀(○)、大森 裕也(○)、武井 勇太(○)、津島 直樹(○)、安住 建志(○)、石田 喜世志(○)
シンガポール	影山 雅永、古賀 琢磨、山口 森久
スリランカ	内藤 康介(○)、坂口 慶輔(○)
タジキスタン	鈴木 隣
チャイニーズ・タイペイ	今井 敏明、黒田 和生
トルクメニスタン	中村 恭平
ネパール	塩澤 敏彦
バングラデシュ	松原 啓(○)、山口 敬宣(○)
東ティモール	築館 範男
フィリピン	今井 雅隆、神戸 清雄、阿部 圭亜(○)
ブータン	行徳 浩二、松山 博明、小原 一典
マカオ	上田 栄治、今井 雅隆、影山 雅永
ミャンマー	築館 範男、前川 義信、熊田 喜則
ヨルダン	沖山 雅彦
ラオス	関口 潔、木村 浩吉

○はJICAによる派遣。※2012年7月現在



アジアユース育成資金援助プログラム

2002年にスタートした「アジアユース育成資金援助プログラム」では、財政事情にかかわらず、継続的かつ計画的にユース育成を行えるよう、各国のユース年代の競技会の創設や運営などを資金面からバックアップしています。

2011年度は十数カ国の協会を対象に資金援助を実施しました。

JFAインターナショナルコーチングコース／JFAインターナショナルレフェリーインストラクターコース

JFAは2006年から毎年1回、AFC加盟協会の指導者を対象に「JFAインターナショナルコーチングコース」を開催し、JFAの指導者養成事業に関するノウハウを提供しています。

2011年度までは合格者にJFA公認C級コーチのライセンスを付与していましたが、アジア各国協会の現状と課題を踏まえ、2012年度からは、コースの内容をテクニカルダイレクターや指導者養成担当者向けに変更しました。

また、2008年からは同じく年1回、AFC加盟協会の審判インストラクターを対象に「JFAインターナショナルレフェリーインストラクターコース」を実施しています。

こういった取り組みは、参加した指導者だけでなく、彼らを指導する日本人インストラクターのスキルアップにも効果を上げています。JFAは各国の指導者・審判インストラクターを養成することでアジア全体のレベルアップを目指しています。



キャンプの受け入れ／海外視察団の受け入れ

日本の整った施設・環境でトレーニングキャンプを行いたいという各国からの要望に応え、JFAでは2001年以降、海外の代表チームやユースチーム、選手らを受け入れて、ナショナルトレーニングセンター(30ページ)などをキャンプ地として提供したり、日本のチームとのマッチメイクを行うなど、各国協会の強化をサポートしています。

また、各大陸連盟や各国サッカー協会、リーグ関係者らのプロリーグやユース育成に関する視察を受け入れ、JFAやJリーグの活動、運営状況などを紹介しています。

キャンプの受け入れ

国・地域	チーム	選手/コーチ
アフガニスタン		コーチ
イラク	U-18代表	
インドネシア	男女フットサル代表	
ウズベキスタン	U-19代表、U-17代表、U-16代表	
北マリアナ諸島	女子代表、U-15代表	
グアム	代表、U-19代表、U-18代表、U-16代表	U-13選手
シンガポール	U-23代表、U-16代表	
チャイニーズ・タイペイ	フットサル代表、U-18代表	選手
ネパール		U-13選手
フィリピン	代表、U-23代表	
ベトナム	代表、女子代表	
マカオ		GKコーチ、U-18選手
マレーシア	U-20代表	
ミャンマー	U-23代表、U-16代表	

※2012年7月現在

海外視察団の受け入れ

国・地域	視察団
インド	プロリーグ
韓国	サッカー協会
サウジアラビア	プロリーグ
タイ	サッカー協会、プロリーグ、スポーツ省、観光・スポーツ常務委員会
チャイニーズ・タイペイ	サッカー協会
中国	サッカー協会、体育総局、スポーツ省、中学/高校教師団
ベトナム	プロリーグ
マレーシア	サッカー協会、プロリーグ
ミャンマー	プロリーグ

※2012年7月現在

日本サッカーの歩み

- 1921 9月 大日本蹴球協会創立(9月10日)
1919年にイングランドサッカー協会(The FA)からFAシルバークップが寄贈されたことを機に、大日本蹴球協会が創設される。
- 11月 ア式蹴球全国優勝競技会(現、天皇杯日本サッカー選手権大会)開催
- 1929 5月 国際サッカー連盟(FIFA)に加盟(第二次世界大戦の際に除名)
- 1931 6月 大日本蹴球協会の旗章が制定される
- 1936 8月 日本代表、ベルリンオリンピックでベスト8
初めて出場したオリンピックで優勝候補のスウェーデンを3-2で破る大金星(「ベルリンの奇跡」)。川本泰三がオリンピックにおける日本人初ゴールを決める。
- 1950 9月 FIFAに再加盟
- 1954 10月 アジアサッカー連盟(AFC)に加盟
- 1956 11月 日本代表、メルボルンオリンピックに出場
- 1958 5月 市田左右一JFA常務理事がFIFA理事に就任
- 1960 8月 デットマール・クラマー氏を日本代表初の外国人コーチに招聘



- 1964 10月 日本代表、東京オリンピックでベスト8
- 1965 6月 日本初の全国リーグ、日本サッカーリーグ(JSL)が開幕
- 1968 10月 日本代表、メキシコオリンピックで銅メダル
南米やヨーロッパの強豪を打ち破る快進撃を見せ、地元メキシコの3位決定戦を制して銅メダルを獲得。釜本邦茂が得点王に輝いたほか、この年に新設されたFIFAフェアプレー賞を受賞。翌年にはユネスコの1968年度のフェアプレー賞を受賞。
- 1969 4月 野津謙JFA会長がFIFA理事に就任
- 1974 8月 財団法人化。財団法人日本サッカー協会に名称変更
- 1978 5月 ジャパンカップ(現、キリンカップサッカー)がスタート
- 1979 8-9月 日本初のFIFAの主催大会、FIFAワールドユース・トーナメント(現、FIFA U-20ワールドカップ)を開催。U-20日本代表が出場。
- 1981 2月 第1回トヨタヨーロッパ/サウスアメリカカップ(通称トヨタカップ)を開催(～2004年)
- 1985 8-9月 ユニバーシアード神戸大会開催。サッカーが正式種目となり、ユニバーシアード日本代表が出場
- 1986 4月 プロ選手の登録「スペシャルライセンスプレーヤー制度」を導入
奥寺康彦(古河電工)、木村和司(日産自動車)がプロ登録。これを機に選手のプロ化が進む。
- 1987 3月 高円宮憲仁親王殿下、JFA名誉総裁にご就任
- 1989 1月 フットサル日本代表、第1回FIFA5人制室内サッカー世界選手権(オランダ/現、FIFAフットサルワールドカップ)に出場
- 9月 日本女子サッカーリーグ(現、なでしこリーグ)がスタート

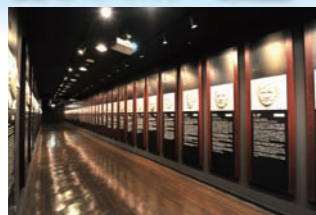
- 11月 2002FIFAワールドカップの開催国として正式に立候補を表明
- 1991 11月 日本女子代表、第1回FIFA女子世界選手権(中国/現、FIFA女子ワールドカップ)に出場
- 11月 社団法人日本プロサッカーリーグ設立(10クラブが加盟)
- 1992 10-11月 日本代表、アジアカップ(広島)で初優勝
- 1993 5月 Jリーグ開幕(5月15日)
- 8月 FIFA U-17世界選手権(現、FIFA U-17ワールドカップ)を日本で開催。U-17日本代表、ベスト8
- 1995 2月 FIFAに対し、2002FIFAワールドカップの開催の正式立候補の確認書を送付
- 4月 U-20日本代表、FIFAワールドユース選手権(カタール/現、FIFA U-20ワールドカップ)でベスト8。FIFAフェアプレー賞を受賞
- 6月 日本女子代表、第2回FIFA女子サッカー世界選手権(スウェーデン/現、FIFA女子ワールドカップ)でベスト8
- 8月 U-17日本代表、FIFA U-17世界選手権(エクアドル/現、FIFA U-17ワールドカップ)に出場



- 9月 ユニバーシアード日本代表、ユニバーシアード福岡大会で初優勝
- 1996 5月 2002FIFAワールドカップ、日本と韓国の共同開催が決定
- 7月 U-23日本代表、日本女子代表がアトランタオリンピックに出場
女子サッカーがこのアトランタオリンピックから採用され、日本女子代表が初出場。男子も28年ぶりの出場を果たした。U-23日本代表は初戦で優勝候補のブラジルと対戦し、1-0で勝利した(「マイアミの奇跡」)。
- 1997 6月 U-20日本代表、FIFAワールドユース選手権(マレーシア/現、FIFA U-20ワールドカップ)で2大会連続ベスト8
- 11月 日本代表、FIFAワールドカップ(フランス)の出場権を獲得
アジア地区第3代表決定戦でイランをゴールデンゴールで破り、悲願の本大会初出場を決める(「ジョホールバルの歓喜」)。
- 12月 財団法人2002年FIFAワールドカップサッカー大会日本組織委員会(JAWOC)設立



日本サッカー殿堂



日本サッカーの礎を築いた先駆者たちの功績を称える

「日本サッカー殿堂」は2005年5月27日、日本サッカーの発展に貢献した先駆者たちを称えるため、日本サッカーミュージアム内にオープンしました。現在の日本サッカーの隆盛は、多くの人々の勇気と熱意、たゆまぬ努力によって築かれたものなのです。

< 掲額者 >

- 坪井 玄道(つばい げんどう)
1852年1月9日、千葉県生まれ。
- 高橋 龍太郎(たかはし りゅうたろう)
第3代会長(在任期間:1947年～1954年)
1875年7月15日、愛媛県生まれ。
- 深尾 隆太郎(ふかお りゅうたろう)
第2代会長(在任期間:1935年～1945年)
1877年1月19日、大阪府生まれ。
- 今村 次吉(いまむら じきち)
初代会長(在任期間:1921年～1933年)
1881年生まれ。

- 内野 台嶺(うちの たいれい)
1884年4月29日、神奈川県生まれ。
- William Haigh(ウィリアム・ヘイグ)
1891年3月14日、英国生まれ。
- 山田 午郎(やまだ ごろう)
1894年3月3日、福島県生まれ。
- 新田 純興(にった すみおき)
1897年1月14日、北海道生まれ。
- 野津 謙(のづ けん)
第4代会長(在任期間:1955年～1976年)
1899年3月12日、広島県生まれ。

- Kyaw Din(キョウ・ディン)
1900年6月、ビルマ生まれ。
- 鈴木 重義(すずき しげよし)
1902年10月13日、福島県生まれ。
- 玉井 操(たまい みさお)
1903年12月16日、兵庫県生まれ。
- 竹腰 重丸(たけのこし しげまる)
1906年2月15日、大分県生まれ。
- 小野 卓爾(おの たくじ)
1906年7月14日、北海道生まれ。

- 平井 富三郎(ひらい とみさぶろう)
第5代会長(在任期間:1976年～1987年)
1906年12月13日、東京都生まれ。
- 手島 志郎(てしま しろう)
1907年2月26日、台北生まれ(広島県出身)。
- 田辺 治太郎(第14代田辺五兵衛)
(たなべ じたろう)
1908年3月18日生まれ。
- 竹内 健三(たけうち けんざう)
1908年11月6日、東京都生まれ。
- 篠島 秀雄(しのじま ひでお)
1910年1月21日、栃木県生まれ。
- 藤田 静夫(ふじた しずお)
第6代会長(在任期間:1987年～1992年)
1911年2月5日、京都府生まれ。
- 福島 玄一(ふくしま げんいち)
1911年4月6日、宮城県生まれ。
- 村形 繁明(むらかた しげあき)
1913年5月11日、東京都生まれ。
- 川本 泰三(かわもと たいざう)
1914年1月17日、愛知県生まれ。

- 島田 秀夫(しまだ ひでお)
第7代会長(在任期間:1992年～1994年)
1915年6月27日、岡山県生まれ。
- 高橋 英辰(たかはし ひでとき)
1916年4月11日、福島県生まれ。
- 二宮 洋一(にのみや ひろかず)
1917年11月22日、兵庫県生まれ。
- 大谷 四郎(おおたに しろう)
1918年4月23日、兵庫県生まれ。
- 多和 健雄(たわ たけお)
1918年10月29日、愛媛県生まれ。
- 賀川 太郎(かがわ たろう)
1922年8月9日、兵庫県生まれ。
- 賀川 浩(かがわ ひろし)
1924年12月29日、兵庫県生まれ。
- Dettmar Cramer(デットマール・クラマー)
1925年4月4日、西ドイツ・ドルトムント生まれ。
- 弁島 正憲(ときた まさのり)
1925年6月24日、兵庫県生まれ。

- 岩谷 俊夫(いわたに としお)
1925年10月24日、兵庫県生まれ。
- 長沼 健(ながぬま けん)
第8代会長(在任期間:1994年～1998年)
1930年9月5日、広島県生まれ。
- 大畠 襄(おおはた のぞむ)
1930年11月25日、東京都生まれ。
- 岡野 俊一郎(おかの しゅんいちろう)
第9代会長(在任期間:1998年～2002年)
1931年8月28日、東京都生まれ。
- 平木 隆三(ひらき りゅうざう)
1931年10月7日、大阪府生まれ。
- 丸山 義行(まるやま よしゆき)
1931年10月28日、栃木県生まれ。
- クリストファーW.マクドナルド
1931年12月13日、英国生まれ。
- 牛木 素吉郎(うしき そきちろう)
1932年6月12日、新潟県生まれ。
- 八重樫 茂生(やえがし しげお)
1933年3月24日、大田(現大韓民国)生まれ
(岩手県出身)。

- 浅見 俊雄(あさみ としお)
1933年10月3日、埼玉県生まれ。
- 渡辺 正(わたなべ まさし)
1936年11月11日、広島県生まれ。
- 川淵 三郎(かわぶち さぶろう)
第10代会長(在任期間:2002年～2008年)
1936年12月3日、大阪府生まれ。
- 鎌田 光夫(かまた みつお)
1937年12月16日、茨城県生まれ。
- 宮本 征勝(みやもと まさかつ)
1938年7月4日、茨城県生まれ。
- 鈴木 良三(すずき りょうざう)
1939年9月20日、埼玉県生まれ。
- 片山 洋(かたやま ひろし)
1940年5月28日、東京都生まれ。
- 宮本 輝紀(みやもと てるき)
1940年12月26日、広島県生まれ。
- 杉山 隆一(すぎやま りゅういち)
1941年7月4日、静岡県生まれ。

- 松本 育夫(まつもと いくお)
1941年11月3日、栃木県生まれ。
- 小城 得達(やまぎ ありたつ)
1942年12月10日、広島県生まれ。
- 横山 謙三(よこやま けんざう)
1943年1月21日、東京都生まれ。
- 森 孝慈(もり たかじ)
1943年11月24日、広島県生まれ。
- 釜本 邦茂(かまもと くにしげ)
1944年4月15日、京都府生まれ。
- 山口 芳忠(やまぐち よしただ)
1944年9月28日、静岡県生まれ。
- 落合 弘(おちあい ひろし)
1946年2月28日、埼玉県生まれ。
- 吉村 大志郎(よしむら だいしろう)
1947年8月16日、ブラジル・サンパウロ生まれ。

※2012年7月1日現在。生年月日順に掲載

日本サッカーの歩み

1998 6-7月 日本代表、FIFAワールドカップ(フランス)初出場

1999 3月 Jリーグ、1・2(J1・J2)部制を導入

4月 **U-20日本代表**、FIFAワールドユース選手権(ナイジェリア/現、FIFA U-20ワールドカップ)で準優勝

6月 **日本女子代表**、第3回FIFA女子世界選手権(アメリカ/現、FIFA女子ワールドカップ)に出場

2000 9月 **U-23日本代表**、シドニーオリンピックでベスト8

10月 **日本代表**、AFCアジアカップ(レバノン)で2度目の優勝

2001 6月 **U-20日本代表**、FIFAワールドユース選手権(アルゼンチン/現、FIFA U-20ワールドカップ)に出場

8月 **ユニバーシアード日本代表**、ユニバーシアード北京大会で2度目の優勝

9月 **U-17日本代表**、FIFA U-17世界選手権(トリニダード・トバゴ/現、FIFA U-17ワールドカップ)に出場

2002 5-6月 2002FIFAワールドカップを韓国と共同開催

日本代表、2002FIFAワールドカップでベスト16
日本は、グループステージを2勝1分けで突破。決勝トーナメント1回戦でトルコに0-1で惜敗するも堂々のベスト16入り。ワールドカップ開催により、試合会場やキャンプ地などでは日本を訪れた海外チームやファンと地元の人々が交流を深め、韓国との友好関係も築かれた。日本のホスピタリティーは高く評価され、「笑顔のワールドカップ」としてその歴史に刻まれた。また、この年、日本と韓国にFIFAフェアプレー賞が授与された。



8月 小倉純二JFA副会長がFIFA理事に就任

8月 **U-19日本女子代表**、FIFA U-19女子世界選手権(カナダ/FIFA U-20女子ワールドカップの前身)でベスト8。FIFAフェアプレー賞を受賞

10月 「キャプテンズ・ミッション(現、プレジデントズ・ミッション)」を策定

11月 JFA名誉総裁高円宮憲仁親王殿下薨去

2003 3月 高円宮妃殿下がJFAの名誉総裁にご就任

8月 **ユニバーシアード日本代表**、ユニバーシアードテグ大会で3度目の優勝

8-10月 **日本女子代表**、FIFA女子ワールドカップ(アメリカ)に出場

11-12月 **U-20日本代表**、FIFAワールドユース選手権(UAE/現、FIFA U-20ワールドカップ)でベスト8

12月 JFAハウスに日本サッカーミュージアムをオープン

2004 7-8月 **日本代表**、AFCアジアカップ(中国)で2大会連続優勝

8月 **U-23日本代表**、**なでしこジャパン(日本女子代表)**、アテネオリンピックに出場。なでしこジャパンはベスト8入り、FIFAフェアプレー賞を受賞

11-12月 **フットサル日本代表**、FIFAフットサル世界選手権(チャイニーズ・タイペイ/現、FIFAフットサルワールドカップ)に出場

2005 1月 「JFA2005年宣言」(1月1日)
「DREAM~夢があるから強くなる」をスローガンに、JFAの理念、ビジョン、達成目標を発表。



5月 **ビーチサッカー日本代表**、第1回FIFAビーチサッカーワールドカップ(ブラジル)で4位、FIFAフェアプレー賞を受賞

5月 日本サッカー殿堂を設立

6月 **U-20日本代表**、FIFAワールドユース選手権(オランダ/現、FIFA U-20ワールドカップ)に出場

8月 **ユニバーシアード日本代表**、ユニバーシアードイズミル大会で4度目の優勝

12月 初のFIFAクラブワールドチャンピオンシップ(現、TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップ)を日本で開催(~2008年、2011~2012年)

2006 4月 JFAアカデミー福島、開校

6-7月 **SAMURAI BLUE(日本代表)**、FIFAワールドカップ(ドイツ)出場

11月 **ビーチサッカー日本代表**、FIFAビーチサッカーワールドカップ(ブラジル)でベスト8

12月 TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップジャパン2006を開催

2007 4月 「JFAこころのプロジェクト」をスタート
サッカー選手をはじめ、各競技のアスリートらが「夢先生(ユメセン)」として全国の小学校などで「夢の教室」を開催。

6-7月 **U-20日本代表**、FIFA U-20ワールドカップ(カナダ)でベスト16。FIFAフェアプレー賞を受賞

8月 **U-17日本代表**、FIFA U-17ワールドカップ(韓国)に出場

9月 **なでしこジャパン**、FIFA女子ワールドカップ(中国)に出場

9月 日本フットサルリーグ(Fリーグ)開幕

11月 **ビーチサッカー日本代表**、FIFAビーチサッカーワールドカップ(ブラジル)に出場

12月 TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップジャパン2007を開催。浦和レッズが3位入賞

2008 7月 **ビーチサッカー日本代表**、FIFAビーチサッカーワールドカップ(マルセイユ)に出場

8月 **U-23日本代表**、**なでしこジャパン**、北京オリンピックに出場。なでしこジャパンは4位入賞

9-10月 **フットサル日本代表**、FIFAフットサルワールドカップ(ブラジル)に出場

10-11月 **U-17日本女子代表**、FIFA U-17女子ワールドカップ(ニュージーランド)でベスト8

11-12月 **U-20日本女子代表**、FIFA U-20女子ワールドカップ(チリ)でベスト8

12月 TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップジャパン2008を開催。ガンバ大阪が3位入賞

2009 4月 JFAアカデミー熊本宇城、開校

8月 JFAメディカルセンターをJヴィレッジにオープン

10-11月 **U-17日本代表**、FIFA U-17ワールドカップ(ナイジェリア)に出場

11月 **ビーチサッカー日本代表**、FIFAビーチサッカーワールドカップ(UAE)でベスト8。FIFAフェアプレー賞を受賞

2010 6-7月 **SAMURAI BLUE**、FIFAワールドカップ(南アフリカ)でベスト16



7月 **U-20日本女子代表**、FIFA U-20女子ワールドカップ(ドイツ)に出場

9月 **U-17日本女子代表**、FIFA U-17女子ワールドカップ(トリニダード・トバゴ)で準優勝

2011 1月 **SAMURAI BLUE**、AFCアジアカップ(カタール)で4度目の優勝

6-7月 **U-17日本代表**、FIFA U-17ワールドカップ(メキシコ)でベスト8、FIFAフェアプレー賞を受賞

6-7月 **なでしこジャパン**、FIFA女子ワールドカップ(ドイツ)で初優勝
澤穂希が大会MVPと得点王に輝き、チームはFIFAフェアプレー賞を受賞。



8月 **なでしこジャパン**が国民栄誉賞を受賞
FIFA女子ワールドカップでの躍進が評価され、団体が初めて国民栄誉賞を受賞した。

8月 FAシルバーカップが復元され、イングランドサッカー協会(The FA)から贈呈

9月 **ビーチサッカー日本代表**、FIFAビーチサッカーワールドカップ(イタリア)に出場

12月 TOYOTAプレゼンツFIFAクラブワールドカップジャパン2011を開催。柏レイソルが4位入賞

2012 1月 FIFAバロンドール2011で澤穂希がFIFA女子年間最優秀選手賞、佐々木則夫監督は女子年間最優秀監督賞を、日本サッカー協会がFIFAフェアプレー賞を受賞

4月 公益財団法人日本サッカー協会に組織変更

4月 JFAアカデミー堺、開校

7-8月 **U-23日本代表**、**なでしこジャパン**、ともにロンドンオリンピックに出場し、U-23日本代表がベスト4に躍進。なでしこジャパンは銀メダルを獲得

8月 FIFA U-20女子ワールドカップを日本で開催。**U-20日本女子代表**は3位

日本サッカーミュージアム

日本サッカーミュージアムは、2002FIFAワールドカップの開催がもたらした遺産を継承すべく、2003年12月に設立されました。

館内には、日本サッカーの歴史を彩る品や貴重な資料、日本サッカーの礎を築いた先駆者の功績などが数多く展示され、

日本サッカーの全てが分かる国内唯一の博物館として人気を博しています。

2011年には、AFCアジアカップでサムライブルーが手にした優勝カップのレプリカや

FIFA女子ワールドカップでなでしこジャパンが獲得した優勝トロフィー、実際に選手が着用していたスパイクなど、

日本サッカーの輝かしい栄光の数々が加わりました。

<2002FIFAワールドカップ™記念>

日本サッカーミュージアム

営業案内

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)

tel 03-3830-2002 URL http://www.11plus.jp

●営業時間 火曜日～金曜日 13:00～18:00(最終入場17:30)

土日祝日・特別営業期間 10:00～18:00(最終入場17:30)

●休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌火曜日)／年2回のメンテナンス期間

●入場料 一般：大人500円、小中学生300円、幼児無料

団体(20名様以上)・障がい者の方・JFAサッカーファミリー：大人400円、小中学生200円

※その他の割引については、来館時にスタッフにお問い合わせください。

※団体申込、修学旅行、職場体験等については、事前にお問い合わせください。



ナショナルトレーニングセンター

Jヴィレッジ J-VILLAGE

1997年7月、福島県に日本初のサッカー専用ナショナルトレーニングセンター「Jヴィレッジ」がオープン。代表チームやJクラブ、少年・少女チーム、海外チームの合宿地としてだけでなく、各種大会や指導者養成事業、審判講習会などにも幅広く利用され、延べ12700チーム、100万人以上の人々がJヴィレッジを利用しました。2011年3月に起きた東日本大震災と原発事故の影響により、現在は活動を休止しています。

J-STEP(清水ナショナルトレーニングセンター) J-STEP

トップアスリートからスポーツ愛好者にいたるまで誰もがスポーツを楽しめる拠点として2001年4月、静岡県静岡市に誕生しました。天然芝フィールドや体育館、トレーニングジムなどを備えており、あらゆる用途に対応できる総合スポーツ施設としての役割を果たしています。

J-GREEN堺(堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター)

国内3カ所目のサッカー・ナショナルトレーニングセンターとして2010年4月、大阪府堺市にオープンしました。日本最大の規模を誇るトレーニングセンターで、天然芝フィールド5面、人工芝フィールド9面、フットサルフィールド8面、トラック付フィールドなどを備えています。また、サイクリングコースやウォーキングコース、スポーツ広場も設置され、地域住民の健康づくりや青少年の健全育成にも貢献しています。



JFAメディカルセンター

JFAメディカルセンターは、医療施設として初めて「FIFAゴールプログラム」(*)の助成を受け、2009年8月、Jヴィレッジ内に開設されました。負傷した選手のケアのみならず地域住民向けの診療やスポーツ医学、障害予防などに関する研究も行い、その広い役割に期待

が集まっていましたが、東日本大震災と原発事故の影響により、現在は一時的に活動を休止しています。

* FIFAゴールプログラム：1999年にFIFAのジョセフ・S・ブラッター会長の提案によって設置された、FIFAによる助成制度。

関連団体組織連絡先

公益財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス
TEL:03-3830-2004 FAX:03-3830-2005

関連団体

東アジアサッカー連盟
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス (公財)日本サッカー協会内
TEL:03-3830-1848 FAX:03-3830-1849

(公財)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)
〒113-0033 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス9F
TEL:03-3830-2006 FAX:03-3830-2007

(一社)日本フットボールリーグ(JFL)
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス7F (公財)日本サッカー協会内
TEL:03-3830-1840 FAX:03-3830-1847

(一社)日本女子サッカーリーグ(Lリーグ)
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス7F (公財)日本サッカー協会内
TEL:03-3830-1841 FAX:03-3830-1847

(一財)日本フットサル連盟
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス7F (公財)日本サッカー協会内
TEL:03-3830-1843 FAX:03-3830-1847

(一財)全国社会人サッカー連盟
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス7F (公財)日本サッカー協会内
TEL:03-3830-1845 FAX:03-3830-1847

全国自治体職員サッカー連盟
〒183-0006 東京都府中市緑町1-27-1
東京都建設局 北多摩南建設事務所 補修課長 黒木秀一様
TEL:042-330-1852 FAX:042-369-3890

全国自衛隊サッカー連盟
〒162-8804 東京都新宿区市谷本村町5-1
航空幕僚監部 防衛部装備体系課 装備体系企画班 宇宙係
2等空佐 木下拓也様
TEL:03-5366-3111(内線60563)

(一財)全日本大学サッカー連盟
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス7F (公財)日本サッカー協会内
TEL:03-3830-1850 FAX:03-3830-1851

全日本大学女子サッカー連盟
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス7F (公財)日本サッカー協会内
TEL:03-3830-1984 FAX:03-3830-1847

全国専門学校サッカー連盟
〒930-0014 宮城県仙台市青葉区本町1-15-1
仙台総合ビジネス公務員専門学校 熊谷孝一様
TEL:022-221-1113 FAX:022-211-9252

全国高等専門学校サッカー連盟
〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7-1
新居浜工業高専 安藤進一様
TEL:0897-37-7700

(公財)全国高等学校体育連盟サッカー部
〒171-0031 東京都豊島区目白1-5-1 学習院高等科 玉生謙介様
TEL:03-3986-0221

(一財)日本クラブユースサッカー連盟
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス7F (公財)日本サッカー協会内
TEL:03-3830-1844 FAX:03-3830-1847

(公財)日本中学校体育連盟サッカー部
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内
TEL:03-3481-2425 FAX:03-3481-2493

地域・都道府県サッカー協会

(公財)北海道サッカー協会
〒062-0912 札幌市豊平区水車町5-5-41
北海道フットボールセンター内
TEL:011-825-1100 FAX:011-825-1101

東北サッカー協会
〒990-0042 山形市七日町1-4-18 トラッドセブン2-E
NPO山形県サッカー協会内
TEL:023-626-5422 FAX:023-626-5423

(一社)青森県サッカー協会
〒033-0011 三沢市幸町1-6-27
TEL:0176-50-2866 FAX:0176-50-2867

(社)岩手県サッカー協会
〒028-3318 紫波郡紫波町紫波中央駅前2-1-1 岩手県フットボールセンター
TEL:019-681-8010 FAX:019-681-8012

(社)宮城県サッカー協会
〒981-0103 宮城県利府町森郷字内ノ目南119-1 宮城県サッカー場内
TEL:022-767-7679 FAX:022-767-3076

(一社)秋田県サッカー協会
〒010-0974 秋田市八橋運動公園1-5 秋田県スポーツ科学センター内3F
TEL:018-896-5665 FAX:018-896-5688

NPO山形県サッカー協会
〒990-0042 山形市七日町1-4-18 トラッドセブン2-E
TEL:023-626-5422 FAX:023-626-5423

(一財)福島県サッカー協会
〒963-8862 郡山市葉根5-9-16 柳沼ビルII号棟2F西室
TEL:024-991-5898 FAX:024-921-4774

関東サッカー協会
〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 シャトー雁ヶ音204
(公財)埼玉県サッカー協会内
TEL:048-834-2002 FAX:048-834-2004

(公財)茨城県サッカー協会
〒310-0026 水戸市泉町2-2-11 大谷ビル2F
TEL:029-228-6645 FAX:029-228-6646

(公財)栃木県サッカー協会
〒320-0834 宇都宮市陽南2-12-19
TEL:028-684-6900 FAX:028-684-3330

(一社)群馬県サッカー協会
〒371-0854 前橋市大渡町1-10-7 群馬県社会総合ビル5F
TEL:027-256-7258 FAX:027-256-7298

(公財)埼玉県サッカー協会
〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 シャトー雁ヶ音204
TEL:048-834-2002 FAX:048-834-2004

(公財)千葉県サッカー協会
〒260-0013 千葉市中央区中央3-9-16 三井生命千葉中央ビル4F
TEL:043-310-4888 FAX:043-222-0355

(公財)東京都サッカー協会
〒160-0013 新宿区麩ヶ丘町10-2 国立霞ヶ丘競技場内
TEL:03-5772-5577 FAX:03-3470-6699

(一社)神奈川県サッカー協会
〒252-0804 藤沢市湘南台1-6-7 小宮ビル4F
TEL:0466-46-5602 FAX:0466-46-5696

(社)山梨県サッカー協会
〒409-3864 中巨摩郡昭和町押越1500-1 押原公園内
TEL:055-267-8885 FAX:055-267-8886

北信越サッカー協会
〒390-1131 松本市今井7037-7
(一社)長野県サッカー協会内
TEL:0263-88-3832 FAX:0263-88-3832

(一社)長野県サッカー協会
〒390-1131 松本市今井7037-7 長野県フットボールセンター内
TEL:0263-57-5210 FAX:0263-57-5211

(一社)新潟県サッカー協会
〒950-1101 新潟市西区山田2307-272 新潟ふるさと村敷地内
時の旅人館2階
TEL:025-233-0100 FAX:025-233-0055

(公財)富山県サッカー協会
〒936-0078 滑川市高月町129番 日医工スポーツアカデミー内
TEL:076-476-0403 FAX:076-476-0423

(一社)石川県サッカー協会
〒920-8203 金沢市鞍月4丁目105番地 ダイワロイヤル全沢ビル3F
TEL:076-218-9000 FAX:076-218-9001

(一社)福井県サッカー協会
〒918-8231 福井市問屋町3-107
TEL:0776-28-2990 FAX:0776-28-2998

東海サッカー協会
〒500-8357 岐阜市六条大溝3-8-13
(一財)岐阜県サッカー協会内
TEL:058-272-4343 FAX:058-272-3181

(一財)静岡県サッカー協会
〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-1-5 5風来館5階
TEL:054-266-5280 FAX:054-266-5281

(公財)愛知県サッカー協会
〒467-0066 名古屋市長瀬区山洲町2-21 啓徳名古屋南ビル5F
TEL:052-846-2320 FAX:052-846-2383

(一社)三重県サッカー協会
〒513-0806 鈴鹿市草所5-22-18 オフィススカ1階
TEL:059-379-5207 FAX:059-379-5154

(一財)岐阜県サッカー協会
〒500-8357 岐阜市六条大溝3-8-13
TEL:058-272-4343 FAX:058-272-3181

関西サッカー協会
〒550-0004 大阪市西区本町1-7-25 TK本町ビル6階
(一社)大阪府サッカー協会内
TEL:06-6441-5911 FAX:06-6441-5882

(公財)滋賀県サッカー協会
〒524-0212 守山市服部町2439 野洲川歴史公園サッカー場内
TEL:077-585-0982 FAX:077-585-0983

(一社)京都府サッカー協会
〒604-8205 京都市中央区新町三条下三條町349-2
くろくろ六角ビル4階
TEL:075-211-9416 FAX:075-211-9417

(一社)大阪府サッカー協会
〒550-0004 大阪市西区本町1-7-25 TK本町ビル6階
TEL:06-6441-5881 FAX:06-6441-5882

(一社)兵庫県サッカー協会
〒651-0085 神戸市中央区八幡通2-10 三木記念神戸市立スポーツ会館内
TEL:078-232-0753 FAX:078-232-4647

(社)奈良県サッカー協会
〒636-0222 磯城郡田原本町法貴寺1371
(公財)埼玉県サッカー協会内
TEL:0744-47-2212 FAX:0744-47-2223

(一社)和歌山県サッカー協会
〒640-8323 和歌山市太田2-14-9-205
TEL:073-472-2713 FAX:073-472-2714

中国サッカー協会
〒730-0011 広島市中区基町4-1
(公財)広島県サッカー協会内
TEL:082-212-3851 FAX:082-212-3852

(一財)鳥取県サッカー協会
〒680-1141 鳥取市蔵田423 鳥取市営サッカー場バードスタジアム内
TEL:0857-51-7600 FAX:0857-51-7603

(一社)鳥取県サッカー協会
〒690-0876 松江市黒田町454-9
TEL:0852-32-4673 FAX:0852-32-4683

(財)岡山県サッカー協会
〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6階
TEL:086-227-5653 FAX:086-226-2037

(公財)広島県サッカー協会
〒730-0011 広島市中区基町4-1 (公財)広島県体育協会内
TEL:082-212-3851 FAX:082-212-3852

(社)山口県サッカー協会
〒753-0048 山口市駅通り2-7-18 トウヨウビル203
TEL:083-920-5700 FAX:083-920-5701

四国サッカー協会
〒770-0864 徳島市大和町2丁目1-6 佐々木ビル2F
(一社)徳島県サッカー協会内
TEL:088-655-6190 FAX:088-656-8121

(一社)香川県サッカー協会
〒761-0104 高松市高松町1367-1 東部運動公園内
TEL:087-816-1790 FAX:087-816-1791

(一社)徳島県サッカー協会
〒770-0864 徳島市大和町2-1-6 佐々木ビル2F
TEL:088-655-6190 FAX:088-656-8121

(一社)愛媛県サッカー協会
〒790-0914 松山市三町3-12-13 三町ビル1F
TEL:089-990-3663 FAX:089-990-3883

(一社)高知県サッカー協会
〒780-0053 高知市駅前町2-1 高砂ビル301
TEL:088-875-3115 FAX:088-872-1151

九州サッカー協会
〒819-0014 福岡市西区豊浜2-19-9 竹田孝様
TEL:090-3324-8790 FAX:092-883-3755

(社)福岡県サッカー協会
〒813-0018 福岡市東区香椎浜5丁目2-16 福岡フットボールセンター内
TEL:092-674-2900 FAX:092-674-2911

(社)佐賀県サッカー協会
〒849-0923 佐賀市日出2-1-11 佐賀県スポーツ会館内
TEL:0952-33-7609 FAX:0952-33-7714

(一社)長崎県サッカー協会
〒850-0851 長崎市古川町6-35 タナカビル2F
TEL:095-829-3370 FAX:095-829-3371

(一社)熊本県サッカー協会
〒860-0831 熊本市中心区八王寺町9-60
TEL:096-334-5565 FAX:096-334-5568

(一社)大分県サッカー協会
〒870-0125 大分市大字松岡6841
TEL:097-573-2288 FAX:097-573-2290

(一社)宮崎県サッカー協会
〒880-0878 宮崎市大和町91 タカララビル1F
TEL:0985-32-7151 FAX:0985-32-7152

(一社)鹿児島県サッカー協会
〒890-0062 鹿児島市与次郎1-8-10 サンロイヤルホテル4F
TEL:099-259-6856 FAX:099-259-3478

(社)沖縄県サッカー協会
〒900-0004 那覇市銘苅1-2-33
TEL:098-861-2401 FAX:098-860-2408

2013年7月16日現在

JFA 2005年宣言

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、
さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAの約束2015

2015年には、世界でトップ10の組織となり、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが500万人になる。
2. 日本代表チームは、世界でトップ10のチームとなる。

JFAの約束2050

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、
ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが1000万人になる。
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームは
その大会で優勝チームとなる。

DREAM

夢があるから強くなる

